

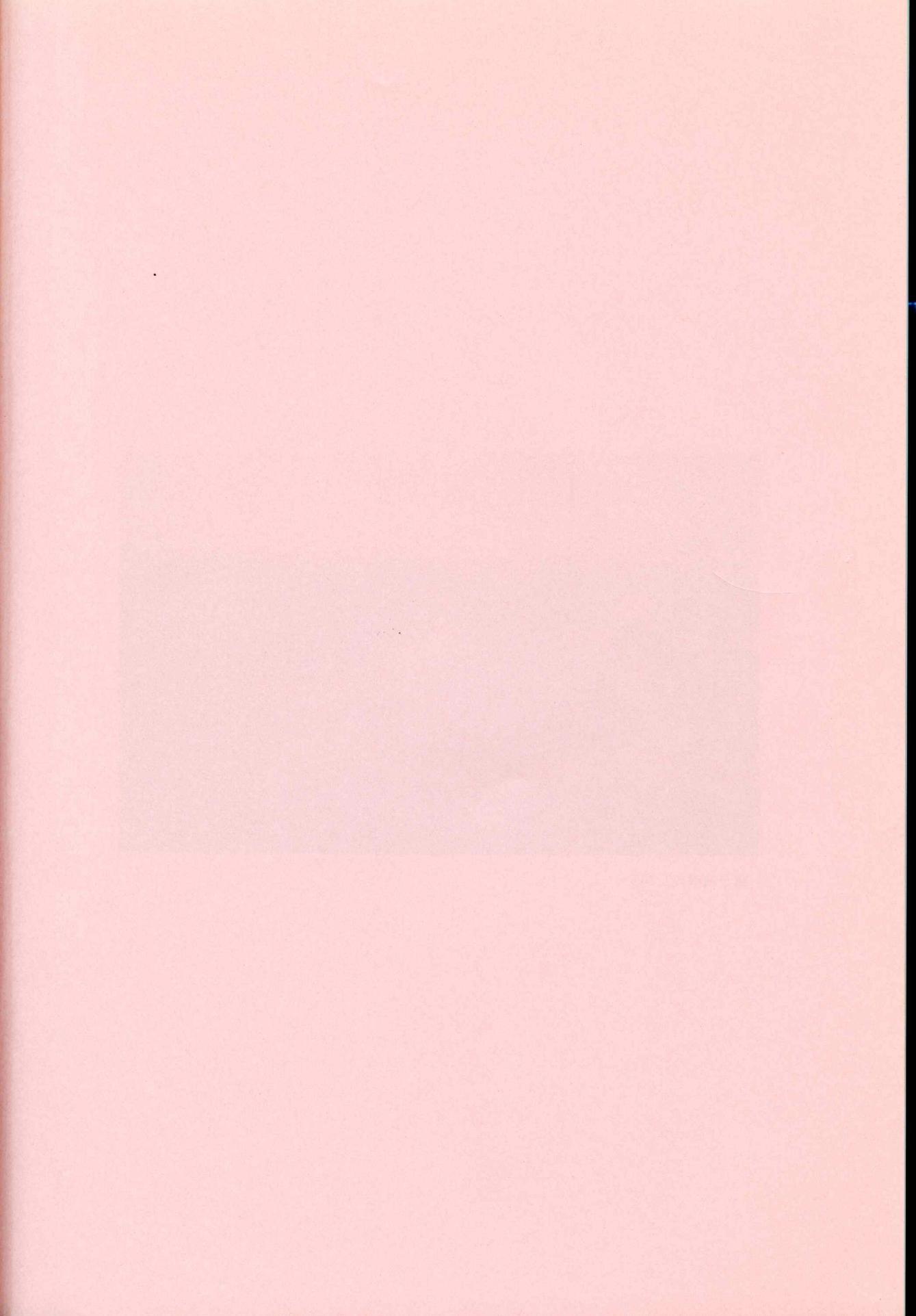
みる・かたる・つくる

# 千葉県立美術館年報

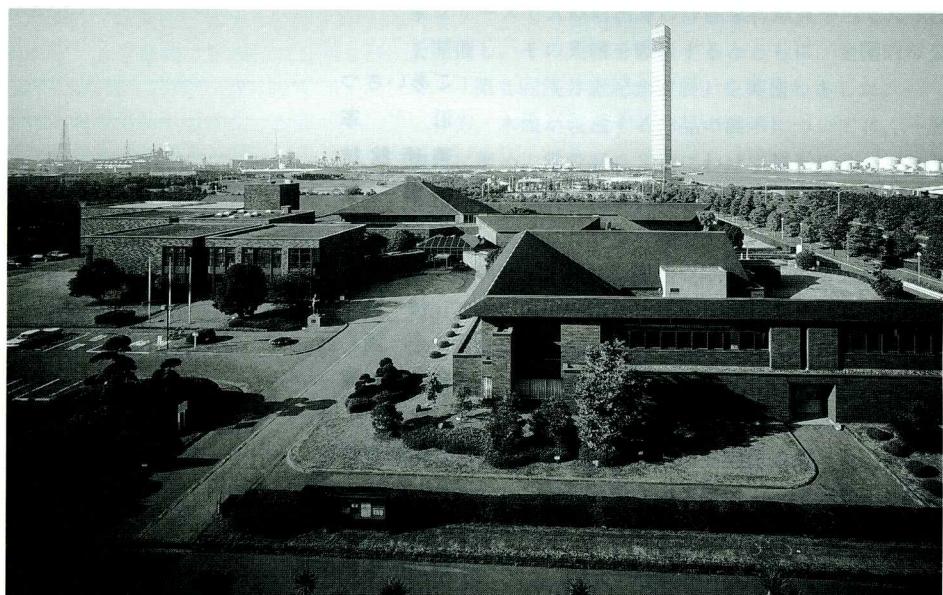
平成 4 年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART









千葉県立美術館外観

## 目 次

ごあいさつ	1
沿革	2
美術館誌	3
事業一覧	4
展示事業	5
常設展	6
特別展	13
企画展	18
普及事業	24
教育普及	25
情報資料室	28
刊行物一覧	32
活動協力	33
調査・収集事業	35
収蔵資料	36
客員研究	39
管理運営	40
機構	41
利用状況	43
展示室利用団体	44
施設	48
関係法令等	52
平成5年度主要事業	53
平成5年度職員	54
利用案内	55

## ごあいさつ

平成4年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります“みる・かたる・つくる”を基本として、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めております。

4年度は、特別展として、20世紀初頭に独創的なスタイルで素朴な心情を表現したナイーフ美術の代表的な画家たちの作品展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」と、本県とのかかわりも深く、大正時代に一世を風靡した竹久夢二の芸術を紹介した「竹久夢二展」を開催しました。企画展としては、房総の美術家シリーズで大原町出身の洋画家に焦点を当てた「石井光楓展」を開催し、その業績を顕彰するとともに、全国的な公募展として、「第3回浅井忠記念賞展」を実施しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を3期にわけて種々のテーマに基づき開催したほか、県内巡回展の移動美術館も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展、企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体、並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

平成5年4月

千葉県立美術館長

白石竹雄

# 沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）	昭和50年3月13日	管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される	昭和50年3月16日	管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する	昭和51年2月20日	管理棟竣工
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）	昭和51年3月2日	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想成る	昭和51年6月7日	寄附によって、正面玄関に植栽を行う
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる 代案として千葉市中央港埋立地が提示される	昭和52年3月12日	彫刻の屋外展示を始める
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発府長と教育長で覚書を交換する	昭和52年4月10日	展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和47年3月31日	基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）	昭和53年1月18日	外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
昭和47年7月31日	展示棟 第1期工事の実施設計完了する	昭和53年2月21日	美術普及棟の準備会が発足する
昭和47年9月21日	展示棟杭打工事着工	昭和53年10月17日	美術普及棟建築予算が計上される
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される	昭和53年11月18日	浅井忠像 完成除幕式
昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）	昭和53年11月30日	美術普及棟実施設計完了する
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる	昭和54年1月8日	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和48年11月30日	管理棟（第2期工事）の実施設計完了する	昭和54年3月5日	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和49年3月31日	展示棟竣工	昭和54年3月22日	県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する（職員14名）	昭和55年2月29日	県民アトリエ棟竣工
昭和49年10月23日	開館記念式典を行う	昭和55年3月16日	県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める	昭和55年4月1日	千葉県美術品取得基金条例施行される
昭和50年2月21日	管理棟杭打工事着工	昭和55年9月9日	県民アトリエ棟情報資料室を開設する
		昭和58年7月29日	美術普及コーナーを開設する
		昭和58年11月12日	開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
		昭和61年3月25日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
		昭和61年4月10日	入口門扉4カ所設置
		昭和61年4月23日	美術館西側沿道寄りの生垣植栽
		昭和61年8月12日	講堂浸水防止工事
		昭和62年3月25日	機械室増築基本設計及び展示棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する
		昭和62年10月15日	展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）

昭和63年5月20日 受水槽設備改修工事（地上式）着工  
 昭和63年8月31日 受水槽設備改修工事（地上式）完了する  
 昭和63年8月31日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事完了する  
 平成元年2月28日 増築展示棟周辺芝張工事完了する  
 平成元年4月1日 普及課が新設され、3課となる  
 平成元年4月20日 開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する  
 平成元年9月11日 空調機改修工事実施設計完了する  
 平成2年6月8日 空調機改修工事完了する  
 平成2年9月29日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事着工  
 平成2年11月7日 案内標識改修工事着工  
 平成3年1月31日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機改修工事完了する  
 平成3年2月20日 案内標識改修工事完了する  
 平成3年12月6日 空調用ポンプ改修工事完了する  
 平成4年4月1日 管理の一部が働く千葉県社会教育施設管理財団へ委託される  
 平成4年10月20日 温湿度記録装置改修工事完了する  
 平成4年12月18日 食堂改修工事完了する

## 平成4年度美術館誌

- 4月1日 辞令交付  
 常設収蔵作品展第Ⅰ期（6月21日まで）  
 5月16日 特別展「アンリ・ルソーとナイーブ美術展」（6月21日まで）  
 21日 フランス人画家ヤンケル氏、他2名来館  
 22日 日本画講座（6月4日まで　日数12日）  
 23日 第1回美術講演会  
 6月11日 版画講座（6月25日まで　日数12日）  
 13日 第2回美術講演会  
 27日 常設収蔵作品展第Ⅱ期（1月10日まで）  
 7月1日 陶芸講座1（7月30日まで　日数9日）  
 2日 洋画講座1（7月12日まで　日数10日）  
 23日 洋画講座2（8月9日まで　日数10日）  
 27日 博物館実習（8月1日まで）8月4日　彫刻講座（8月21日まで　日数12日）  
 7日 個別ビデオライブラリー設置  
 9月1日 陶芸講座2（9月30日まで　日数9日）  
 5日 特別展「竹久夢二展」（10月11日まで）  
 12日 第3回美術講演会  
 19日 「夢二の詩」コンサート  
 22日 開館以来入館者総数300万人突破  
 11月12日 企画展「第16回千葉県移動美術館」（大原町文化センター、11月25日まで）  
 13日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」公募作品搬入（11月15日まで）  
 21日 企画展「石井光楓展」（12月24日まで）  
 27日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」審査会  
 28日 第4回美術講演会  
 企画展「第16回千葉県移動美術館」（大原町コミュニティプラザホール、12月10日まで）  
 12月3日 書芸講座（12月5日まで　日数3日）  
 14日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」入選者発表  
 1月15日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」授賞式・オープニングセレーション  
 16日 企画展「第3回浅井忠記念賞展」（2月21日まで）  
 22日 金工講座（2月4日まで　日数12日）  
 23日 第5回美術講演会  
 2月27日 常設収蔵作品展第Ⅲ期（3月28日まで）

# 事業一覧

月	み る	か た る	つ く る
4	常設収蔵作品展（第Ⅰ期） 4/1~6/21		
5	特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」 5/16~6/21	第1回美術講演会 5/23	日本画講座 5/22~6/4 (日数12日) ②洋画入門講座1 5/26~31 (日数6日)
6	常設収蔵作品展（第Ⅱ期） 6/27~1/10	第2回美術講演会 6/13	②洋画入門講座2 6/6~21 (日数6日) 版画講座 6/11~25 (日数12日) ②洋画入門講座3 6/23~28 (日数6日)
7			陶芸講座1 7/1~30 (日数9日) 洋画講座1 7/2~12 (日数10日) 洋画講座2 7/23~8/9 (日数10日)
8			彫刻講座 8/4~21 (日数12日) ②洋画入門講座4 8/18~23 (日数6日)
9	特別展「竹久夢二展」 9/5~10/11	第3回美術講演会 9/12 「夢二の詩」コンサート 9/19	陶芸講座2 9/1~30 (日数9日) ②洋画入門講座5 9/8~13 (日数6日) ②デッサン入門講座1 9/22~25 (日数4日)
11	企画展「第16回千葉県移動美術館」 (大原町) 11/12~25 企画展「石井光楓展」 11/21~12/24 企画展「第16回千葉県移動美術館」 (大栄町) 11/28~12/10	第4回美術講演会 11/28	②日本画入門講座 11/17~22 (日数6日)
12			書芸講座 12/3~5 (日数3日)
1	企画展「第3回浅井忠記念賞展」 1/16~2/21	第5回美術講演会 1/23	②デッサン入門講座2 1/19~22 (日数4日) 金工講座 1/22~2/4 (日数12日)
2	常設収蔵作品展（第Ⅲ期） 2/27~3/28		②洋画入門講座6 2/9~14 (日数6日)

\* ②は友の会主催講座  
美術団体展は、P44に掲載。

## 展示事業

常設収蔵作品展を3期に分けて開催した。全期を通して、當時のテーマに「房総と近代美術」を設けた。また、これに加えて随時のテーマとして、作家、材質・技法、モチーフ及び新収蔵品の区分を設けて、本館収蔵の優品及び研究資料を公開した。

特別展としては、「アンリ・ルソーとナイーブ美術展」「竹久夢二展」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ－22－石井光楓展」「第3回浅井忠記念賞展」を開催したほか、「第16回千葉県移動美術館」を大原町文化センターと大栄町コミュニティプラザホールにおいて開催した。

## 常設展

### 常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

常設収蔵作品展第Ⅰ期は、2つの区分に分けて展示した。「新収蔵作品」では、平成3年度あらたに収蔵した作品を前期のみ展示した。「房総と近代美術」では本館の代表的な作品や、日頃から鑑賞の要望の高い作品を前期・後期に分けて紹介した。

会 期	(前期) 平成4年4月1日(水)～5月10日(日)	36日間
	(後期) 平成4年5月16日(土)～6月21日(日)	33日間
展示点数	(前期) 96点	
	(後期) 20点	

入場者数 43,518人

### 出 品 目 錄

#### 「新収蔵作品」

No.	作家名	作 品 名	制作年	No.	作家名	作 品 名	制作年				
<日本画>											
1	石井林響	桃 源	1913	○11	デュプレ	森 の は ず れ	1860頃				
2	"	ね づ み	1929	○12	"	嵐 の 前					
3	山口豊専	千 葉 の 男 女		○13	フォンタネージ	十月, 牧場の夕べ	1860				
4	"	海		○14	ルノワール	少 女 像	1816～18				
5	"	蟹		<版画>							
6	"	村 祭		1	牛 玖 健 治	天 使 E	1985				
7	"	山 水 図		2	遠 藤 健 郎	市 役 所 物 語	1991				
8	若木 山	鏡	1957	<工芸>							
9	"	冽	1961	1	香 取 秀 真	銅 製 お し ど り 型 香 合					
10	"	潤	1962	2	"	銅 製 猪 型 水 差 し					
11	"	湧 水	1964	3	"	銅 製 茶 托					
12	"	潜	1966	4	"	銅 製 魚 文 筆 置					
13	"	山 峡 の 春	1967	5	"	銅 製 蟹 型 筆 置					
14	"	わ だ つ み	1968	6	"	銅 製 鰐 口					
<洋画>											
1	安藤信哉	花 束	1970	7	"	銅 製 鼎					
2	"	静 物	1977	8	"	鶴 文 鉄 釜					
3	"	"	1980頃	9	津田永寿	雪 の 朝	1989				
4	石井柏亭	裏 磐 梯 の 秋	1952	○10	津田信夫	少 師 好 生	1934				
5	伊牟田經正	悲 劇	1977	11	"	蛙	"				
6	大崎善生	溪 流	1988	12	"	灰 雷 吼 一	皿 聲				
7	"	初 秋 水 郷	1989	13	"	猿	1935				
8	鹿子木孟郎	風 景		14	"	羊	1937				
9	"	裸 女 と 野 花 ラ	1939～40	15	"	蛇	"				
10	真野紀太郎			16	"						
				17	"	彌 勒 菩 薩	1937～38				

「房総と近代美術」

No.	作家名	作品名	制作年
○18	宮之原謙	釉嵌十字星結晶花挿	1932
19	"	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃
20	"	香 炉	
○21	"	象嵌磁盛上花蝶鉢	
22	"	天目釉草花文壺	
23	"	天目釉蓮蓄彫文壺	
24	"	白磁四方百合象嵌大皿	
25	"	鉄釉牡丹唐草彫文壺	
26	"	牡丹文盛上水指	
○27	"	盛上磁葡萄唐草壺	
28	"	白掛刻文茶碗	
29	"	"	
30	"	白 釉 茶 碗	
31	"	窯 变 釉 茶 碗	
32	"	"	
33	山本正年	黎 明	1953

<書>

1	宇津木雀聲	凝 神 著 書	1989
2	香取秀真	高 杯 の 歌	1946
3	"	父 母 を 思 う 歌	1948
4	"	般若波羅密多心經写経	1949
5	"	鎌 倉 の 歌	1950
6	"	新年同詠林應制歌	1954
7	"	林 の 歌	"
8	"	如 月 之 .....	
9	"	新 万 葉 集 所 載	
10	高橋蒼峰	破 戒	1980
11	"	鳴 瑟	1982

○印のあるものは、後期も展示

<日本画>

No.	作家名	作品名	制作年
● 1	石井林響	魚 樵	1913頃
2	富取風堂	漁 村 の 初 夏	1942
3	"	暮 色	1962
△ 4	東山魁夷	門 雪	1952
● 5	"	春 深	1973
● 6	"	秋	1975

<洋画>

△ 1	クールベ	眠 る 人	1853
● 2	"	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
3	コ ラ ン	田 園 詩	1903
● 4	コ ロ 一	フォンテンブローの風景	1830~35
5	"	ナボリ近郊の思い出	1860~65
● 6	ディ アズ	森 の 中 の 農 婦	1868
● 7	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860~65
● 8	フォンタネージ	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
● 9	"	川 辺 の 二 頭 の 牛	
● 10	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
● 11	ル ソ ー	バルビゾンの農場	
12	ローランス	カルカッソヌの幽閉者の解放	
△ 13	浅 井 忠	藁 屋 根	1887頃
● 14	"	フォンテンブローの夕景	1901
● 15	"	農 婦	1902
● 16	石 井 柏 亭	晚 春 行 楽 図	1938
△ 17	"	信 州 風 景	1948
18	梅 原 龍 三 郎	伊 豆 大 仁 風 景	1929
19	"	皇 居	1980
20	安 井 曽 太 郎	熱 海 附 近	1929

●印のあるものは、前期のみ展示

△印のあるものは、後期のみ展示



## 常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

常設収蔵作品展第Ⅱ期は、3つの区分に分けて展示した。「樹の表現」では、私達に身近な「樹」をモチーフにした作品に焦点をあて、日本画、洋画、版画の各ジャンルの作家により描かれた様々な樹の表現を、「石橋武治・原勝郎」では、近代の洋画界で活躍した千葉県ゆかりの2人の作家に焦点をあて、それぞれの独自の世界を、「房総と近代美術」では、本館の代表的な作品や、目頃から鑑賞の要望の高い作品を、会期を前期・中期・後期に分けて紹介した。

会 期	(前期)	平成4年6月27日(土)～8月30日(日)	56日間
	(中期)	平成4年9月5日(土)～10月11日(日)	32日間
	(後期)	平成4年11月26日(土)～平成5年1月10日(日)	31日間
展示点数	(前期)	101点	
	(中期)	15点	
	(後期)	21点	
入場者数		116,144人	

### 出 品 目 錄

#### 「樹の表現」(前期)

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年
<b>&lt;日本画&gt;</b>							
1	浅井 忠	松	1892	18	都鳥英喜	八瀬の秋	1929
2	石井林響	夜道を駆ける人		19	"	洛北の早春	1934
3	"	老松白鷺之図		20	"	村の道	1942
4	後藤純男	山門雨後	1974	21	中西利雄	南仏風景	1930
5	酒井亜人	樹	1955	22	長谷川良雄	下鴨	1915頃
6	鈴木月潭	茂・残雪	1970頃	23	不破 章	ルッセルスハイム	1974
7	関主税	晨	1984	24	"	御苑	"
8	田岡春径	渓谷	1969	25	間部時雄	寒林	
9	富取風堂	山桜と民家		26	溝口七生	高原の樹々	1975
10	若木山	島ノ椿	1963	27	安井曾太郎	熱海附近	1929
11	"	早春	1969	28	和田 清	秋きたる梓川	1949
<b>&lt;洋画&gt;</b>							
1	浅井 真	林	1942～43	1	東山魁夷	冬樹	1979
2	"	新緑の雑木林	1963	2	"	湖岸	"
3	"	晩秋	1971	3	"	冬華	"
4	足立源一郎	下加茂森	1907	4	"	樹氷	"
5	大久保次郎	庭の木陰	1916	5	星裏一	夜明け	1975
6	"	丘上の鐘楼		6	"	王の樹	1976
7	岸畑久吉	神社	1913	7	"	青い樹	"
8	小堀進	冬晴の果樹園	1936	8	"	太陽	1977
9	"	高原	1951	9	"	(林)	1978
10	"	ロンドンの朝	1964	10	"	枝繁る	"
11	小柳吉次	叢	1984	<b>「石橋武治・原勝郎」(前期)</b>			
12	櫻田精一	冬の並木道	1965	1	石橋武治	火	1951
13	田中善之助	出町	1906	2	"	並木の道	1952
14	鶴田吾郎	千川堤の桜	1912	3	"	白鷺のいる風景	1953
15	"	鷺の巣の雪山	1954	4	"	筑波遠望	"
16	"	谷川岳	1959	5	"	早春	1954
17	"	木をつくる		6	"	水辺	1956

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
7	石橋武治	少 年	1965	<彫刻>	1	高村光太郎	裸 婦 座 像
8	"	水 辺	1966	2	"	手	1916頃
9	"	水 辺 初 夏		3	"	大倉喜八郎の首	1918
10	"	水 郷					1926
11	"	細 道					
12	"	窓 辺 の 少 女					
13	原 勝郎	街 灯 の 有 る 風 景	1930		1	香 取 秀 真	靈 獣 文 大 花 瓶
14	"	モ ン マ ル ト ル	1935	2	"	筋 入 花 瓶	
15	"	コ ー ヒ 一 ひ き	1949	3	"	笑 獅 子 香 爐	
16	"	森 (A)	1955	4	津 田 信 夫	海	1927
17	"	森	"	5	"	雷 吼 一 聲	1935
18	"	森 (C)	"	6	"	鳳 翔 薫 爐	1937
19	"	京 橋	"	7	宮 之 原 謙	釉 嵌 十 字 星 結 晶 水 指	1932
20	"	樹	"	8	"	牡 丹 文 盛 上 水 指	
21	"	デ ツ サ ン (C)		9	"	盛 上 磁 葡 萄 唐 草 壺	
22	"	" (D)					
23	"	" (K)					
24	"	" (L)					
25	"	" (M)					
26	"	" (O)					

### 「房総と近代美術」(前期)

#### <日本画>

1	石井林響	魚 樹	1913頃
2	"	桃 源	1913
3	富取風堂	初 夏	1972
4	"	き び と 茄 子	

#### <洋画>

1	コ ロ 一	フォンテンブローの風景	1830~35
2	ジ ャ ッ ク	森 の 中	
3	デ ュ プ レ	森 の は ず れ	1860頃
4	"	嵐 の 前	
5	ト ロ ウ イ ョ ン	河 辺 の 道	1860~65
6	フ オ ン タ ネ ー ジ	十月, 牧場の夕べ	1860
7	"	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
8	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
9	ル ノ ワ ル	少 女 像	1816~18
10	浅 井 忠	藁 屋 根	1887頃
11	"	婦 人 像	1907
12	石 井 柏 亭	聖 フ ラ ン チエスコ 寺院	1923
13	梅 原 龍 三 郎	竹 窓 読 書 図	1937
14	黒 田 重 太 郎	女 と 小 犬	1928
15	小 堀 進	セ ー ヌ 川	1973
16	椿 貞 雄	鋸山から見た房総半島 トリエール・ショール・セーヌ	1948
17	中 西 利 雄		1930

#### <版画>

1	浜 口 陽 三	26 の さ く ら ん ぼ	1971
2	"	赤 い 鉢	"
3	"	毛 糸	1978

#### <工芸>

1	香 取 秀 真	靈 獣 文 大 花 瓶
2	"	筋 入 花 瓶
3	"	笑 獅 子 香 爐
4	津 田 信 夫	海
5	"	雷 吼 一 聲
6	"	鳳 翔 薫 爐
7	宮 之 原 謙	釉 嵌 十 字 星 結 晶 水 指
8	"	牡 丹 文 盛 上 水 指
9	"	盛 上 磁 葡 萄 唐 草 壺

### 「房総と近代美術」(中期・後期)

#### <日本画>

● 1	富 取 風 堂	初	秋	1955
● 2	"	麦	秋	1971

#### <洋画>

□ 1	ク ル ベ	眠 る 人	1853
2	"	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
□ 3	コ ロ 一	フォンテンブローの風景	1830~35
□ 4	"	ナボリ近郊の思い出	1860~65
□ 5	ジ ャ ッ ク	森 の 中	
□ 6	ディ ア ズ	森 の 中 の 農 婦	1868
7	デ ュ プ レ	森 の は ず れ	1860頃
8	"	嵐 の 前	
□ 9	ド ビ ニ ー	ヴァルモンドワの小川	1847
10	ト ロ ウ イ ョ ン	河 辺 の 道	1860~65
11	フ オ ン タ ネ ー ジ	十月, 牧場の夕べ	1860
12	"	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
13	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
□ 14	ル ソ ー	バルビゾンの農場	
15	ル ノ ワ ル	少 女 像	1816~18
□ 16	ローランス	カルカッソヌの 幽閉者の解放	
□ 17	浅 井 忠	藁 屋 根	1887頃
● 18	"	婦 人 像	1907
● 19	石 井 柏 亭	聖 フ ラ ン チエスコ 寺院	1923
20	"	信 州 風 景	1948
□ 21	梅 原 龍 三 郎	伊 豆 大 仁 風 景	1929
● 22	"	竹 窓 読 書 図	1937
23	黒 田 重 太 郎	女 と 小 犬	1928
□ 24	安 井 曾 太 郎	熱 海 附 近	1929

●中期のみ展示

□後期のみ展示

印のないものは中期・後期共展示

## 常設 収蔵作品展（第Ⅲ期）

常設収蔵作品展第Ⅲ期は、3つの区分に分けて展示した。「浅井忠とその周辺作家たち」では、洋画はもとより、日本画、陶芸など、幅広い浅井の制作活動を時代を追って展示し、さらにフォンタネージなど、浅井と交流のあった作家たちの作品を紹介した。「房総と近代美術」では、近・現代美術の発展に尽力した房総ゆかりの作家の作品及び「版画」の世界に焦点をあてた展示を行った。

会 期 平成5年2月27日（土）～3月28日（日） 26日間  
 展示点数 126点  
 入場者数 12,755人

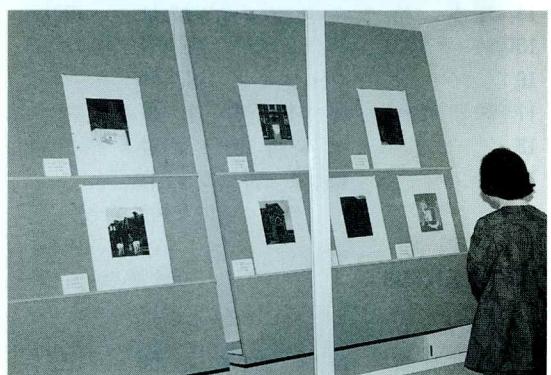
### 出 品 目 錄

#### 「浅井忠とその周辺作家たち」

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年
<日本画>							
1	浅井 忠	田 植 の 図	1889	19	浅井 忠	男 性 裸 像	1901
2	"	松	1892	20	"	フォンテンブローの森	"
3	"	梅	"	21	"	フォンテンブローの夕景	1901頃
4	"	琵 琶 法 師	1890～97	22	"	農 婦	1902
5	"	狂 女 (付, 子規句)	1898頃	23	"	農 家	1902
6	"	古 城 ( " )	"	24	"	パ リ 公 園	1900～02
7	"	人 物 風 俗 図	1902～07	25	"	京都高等工芸学校の庭	1903
8	"	盜 賊	"	26	"	奈 良 郊 外	"
9	"	貼 交 屏 風	"	27	"	中 沢 岩 太 像	"
10	黒沼槐山	花 鳥 図		28	"	欧 州 市 場 風 俗	1903頃
				29	"	老 母 像	1906
				30	"	婦 人 像	1907
				31	"	大 原 女	1902～07
<洋画>							
1	ク ル ベ	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃	32	"	花	"
2	コ ロ ー	フォンテンブローの風景	1830～35	33	足立源一郎	下 加 茂 森	1907
3	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860～65	34	"	カ ー ニ ュ に て	1912～25
4	フォンタネージ	川 辺 の 二 頭 の 牛		35	石井柏亭	病 児	1904
5	"	森 の 空 地 の 農 婦		36	"	冬 の 朝 (行徳)	1909
6	"	牛 を 追 う 農 婦	1862頃	37	石川欽一郎	赤 城 淡 煙	
7	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃	38	伊藤快彦	林 檜	
8	ル ソ ー	バルビゾンの農場		39	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937
9	浅井 忠	少 女	1877	40	小笠原豊涯	中 井 八 重 子 像	1897
10	"	女 の 顔 (模写)	1876～78	41	小川千甕	港	
11	"	鍛 冶 橋	1878頃	42	加藤源之助	秋の山 (大和初瀬村)	1908
12	"	渓 流	1884	43	鹿子木孟郎	風 景	
13	"	沢 入 駅	"	44	国松桂溪	仏 国 ト ル ド ン ヌ	1923頃
14	"	曳 舟 通 り	1885	45	黒田重太郎	浴 後	1927
15	"	藁 屋 根	1887頃	46	榎原一広	収 穫	1918
16	"	平 壤 大 同 江 煉 光 亭	1894	47	桜 井 忠 剛	バ ラ	
17	"	金 州 城 壁 上	1894～95	48	澤 部 清 五 郎	桜	
18	"	金 州 城 南 門 外	"	49	霜 鳥 之 彦	ロ シ ア の 女	1923

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年				
50	田中志奈子	デッサン(大原女)	1905	2	石井林響	春梅	秋禽				
51	田中善之助	高台寺	1906	3	"	花雨	小后				
52	"	聖護院の裏	1907頃	4	"	垣	浮船				
53	都鳥英喜	男の顔	1908	5	酒井亜人	晚竹	根				
54	中林僻	山中湖附近		6	"	風	景				
55	長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	1907	7	田岡春径	仔	馬				
56	牧野克次	松林		8	"	雨	花				
57	間部時雄	田中の牧場		9	富取風堂	群	魚				
58	松岡寿	森と小川	1895	10	"	うすれ	陽				
59	安井曾太郎	デッサン(裸婦)	1907	11	"	若木山	潭				
60	"	熱海附近	1929	12	"	早	春				
<b>&lt;彫刻&gt;</b>											
1	浅井忠	農婦像	1902~07	14	"						
2	"	羅漢像	"	<b>&lt;洋画&gt;</b>							
<b>&lt;工芸&gt;</b>								1	石橋武治	並木の道	1952
1	浅井忠	絵皿(鳳凰)	1901	2	"	水	郷				
2	"	茶器「猿蟹合戦ノ図」	"	3	"	白鷺のいる風景	1953				
3	"	向付皿・揚子挿	"	4	小堀進	漁村	1937				
<b>&lt;資料&gt;</b>								5	"	南欧の丘	1962
1	浅井忠	槐庭画帖	1864~69頃	6	"	雨後の山(信州)	1964				
2	"	槐庭時代綴	"	7	"	花と海	1974				
3	"	A pictorial Museum of Japanese Manners and Customs	1884	8	"	逆光	"				
4	"	従征画稿	1895	9	笹岡了一	放蕩息子の帰宅	1960				
5	"	自筆絵葉書6枚	1903頃	10	"	孟母の家	1973				
6	"	花木(図案)	1902~07	11	"	天使とヤコブの戦い	1975				
7	"	溪流(〃)	"	12	椿貞雄	岩	1936				
8	"	戸棚図(〃)	"	13	"	鋸山から見た房総半島	1948				
9	"	春日野花瓶(〃)	"	14	"	犬吠埼	"				
10	"	花瓶(〃)	"	<b>&lt;版画&gt;</b>							
11	"	投影画法		1	池田満寿夫	中間	1967				
12	"	スケッチブック6冊		2	"	ハートの位置	1968				
13	黒沼槐山	絵手本	1864~69頃	3	"	ウエルカムB	1969				
14	塚本靖	グレーの古城址	1901	4	"	午後	"				
15	"	グレー風景	"	5	"	マーガレットの庭	1970				
16	"	ロワントン湖畔	"	6	"	遙かなる通り	"				
17	和田英作	塚本靖肖像	"	7	"	スフィンクス	"				
18	"	塚本靖宛絵葉書	"	8	"	夜の旅	"				
19	"	絵葉書(富士図)		9	"	「トラベラーズ・ジョイ」 アーグスツに寄せて	1973				
20	"	"(少女図)		10	"	「トラベラーズ・ジョイ」 くずれた土	"				
<b>「房総と近代美術」</b>								11	"	「トラベラーズ・ジョイ」 蒼白なる真珠色	"
<b>&lt;日本画&gt;</b>								12	"	「トラベラーズ・ジョイ」 枯れたすげ	"
1	石井林響	蓬萊仙境之図	1927	13	"	「トラベラーズ・ジョイ」 メラグレーナ	"				

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
14	池田満寿夫	「トラベラーズ・ジョイ」 春 雷	1973	34	瑛 九	樂 愛	園 家
15	"	「トラベラーズ・ジョイ」 抛 物 線	"	35	"	の 道	"
16	"	「トラベラーズ・ジョイ」 胚種（または木の芽時）	"	36	"	鳥 指	"
17	"	「トラベラーズ・ジョイ」 花をつけた灯心草	"	37	"	ヴ ア イ オ リ ン	"
18	"	白 い 誘 惑	1977	38	"	散 步 A	"
19	池田良二	Martin	1979	39	"	少 女	1953
20	"	Scattered Seeds	"	40	"	庭 園	"
21	"	Together again	"	41	"	「銅版画集4『サーカス』」	"
22	"	Lack	1980	42	"	か ぎ	"
23	"	Tristeza	"	43	"	「銅版画集4『サーカス』」	"
24	"	Leaves	"	44	"	よ ろ こ び B	"
25	"	Varanasi	"	45	"	「銅版画集4『サーカス』」	1954
26	"	Nobody Knows my mind	1981	46	"	家 族 B	"
27	牛 玖 健 治	作 品 発 芽	1957	47	"	愛 の よ ろ こ び	"
28	"	2 作 品 発 人	1966頃	48	"	「銅版画集4『サーカス』」	"
29	"	作 品 発 芽	1978	49	"	ド ン フ ア ン 風	"
30	"	作 品 鏡	1980	50	"	「銅版画集4『サーカス』」	1955
31	"	作 品 発 祥	1981	51	"	サ ー カ ス	"
32	"	ゆ う えん ち	1983			シ グ ナ ル B	"
33	"	天 使 E	1985			「銅版画集4『サーカス』」	1956
						い た ず ら	



# 特別展

## アンリ・ルソーとナイーフ美術展

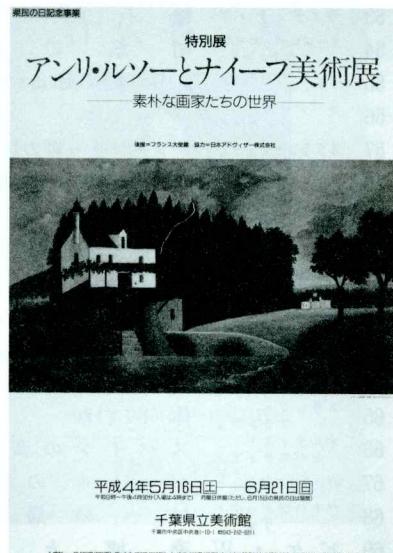
会期 平成4年5月16日(土)～6月21日(日)

展示点数 107点

入場者数 12,362人

ナイーフ(素朴派)美術は、20世紀初頭にアンリ・ルソーが登場し、独創的なスタイルで素朴な心情を表現した作品が高い評価を得てから、近代美術における一領域として注目を浴びるようになった。ナイーフ美術の画家たちは、ほとんど独学で、その作品は自己流の様式だが、反面、伝統にとらわれない豊かな感受性と自由な発想による表現が新鮮な世界を生み出して、あたかも原始美術や民族美術に通じるような内容を漂わせている。

本展では、ナイーフ美術の代表的な画家たちの作品を紹介し、その世界を探った。



### 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
1	アレクサンドリン・ケルダー	私の少女時代	1965	27	デスノス・フェルディナンド	赤い傘の下の猫	1928
2	オーギュスティン・リュット	夢想	1978	28	〃	トゥールのレダ	1950頃
3	バグール・ミゲル	交差点	1961	29	〃	遺言	1950
4	リヴェラ・バウネット	交騎行	1971	30	エップレ・ブルー	水浴する若い女性	1973
5	バルカ・ニーナ	パリスの審判	1968頃	31	ファヴィエ・セシリ	花束	1968
6	ギーシャン・アンドレ	女中と山羊	1968頃	32	フィゲレド・ルイス=カルロス	ヤマンジヤ	1981
7	〃	アンダイの海岸の人物	1947	33	フー・ジャン	村の祭り	
8	〃	聖母被昇天	1924	34	ガレオティ・フランチスコ	鳥使い	1964
9	〃	天の声に呼ばれる		35	ガルニエ・E	室内の静物	1926
10	〃	ジャンヌ・ダルク		36	ジー・フ	ジル・ド・バンシュ	1899
11	〃	婦人と子供		37	ジェネラリック・ヨシップ	雪だるま	1969
12	ブノワ・ジャクリーヌ	シャベルロ中尉の肖像	1929	38	〃	浴女	1967
13	ボワシエ・ロジェ	花屋	1964	39	グレッフ・レオン	7月14日の舞踏会	
14	ボラー・ゴルキ	刈り取る人	1980	40	グリム・モーリス	景色	1955
15	ポンボワ・カミュー	ユリシーズ	1982	41	ギレース	大浮氷群	1978
16	〃	驚いた浴女たち	1930	42	ギゾル・アンリ	村のサーカス	〃
17	〃	花束		43	ハッドルセ・ヴィンセント	メキシコの騎士の装いをしたアナトール・ヤコフスキーノの肖像	1966
18	ブーケ・アンドレ	秋の森の人物		44	エルジ	サント・シャペル	1980
19	ヴィルヌーヴ＝サン＝	ヴィルヌーヴ＝サン＝	1960頃	45	ヘッシング・パール	ヨ	1978
20	ショルジュ	ショルジュの雪景色		46	イアボニ・アラウジョ	森の中で道に迷った小さなインディアン	1970
21	シャルガロ	ニースの夜の祭り	1991	47	イラセマ・アルディティ	アマゾン	1965
22	クロチアニ・エミール	ニースの夜の祭り	1960	48	ジェフトヴィック・ドゥサン	村の祭り	
23	ダニエル・エリザ	カニヴァル		49	クリサック・ジャン	有給休暇	1979
24	ドゥーケ・ジュゼッペ	2匹のフラミング	1977	50	クレカ・ドルジェ	懇願	
25	デュレット・ルイ＝オーギュスト	クレムリンの占領	1939	51	クズマン・ミジョー	パイプを吸う男	1976
26	デュルヌテュ・ジヤン＝ピエスト	ポール・サリュの夫婦	1982	52	クイアトコヴ斯基・ジャン	散歩	1955
27	ドゥメジョー・オスカー	ボート	1971				
28	ドモンシー・アンドレ	バスティーユ広場	1959				

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
53	ラエティティア ラ=ジロディユール・ マディ=ドゥ	輪 舞	1979	89	トゥネイヨ・L トニアト・ウド	パイプを吸う猫 神学学生	
54	ラグリュ・ドミニク	司 祭 の 庭	1963	90	トゥルイヤール・ アンリ	トニアト・ウド	1973
55	ラバジエス・ ジェラール	ソドムの街から逃げ出すロト バ ス 停	1954	91	ヴァンデルスティーン・ ゲルマン	昔	no.1
56	ルフラン・ジュール	サン・マチウ岬の灯台	1947~48	92	ヴェルクリュス・ ベルナール	二 匹 の 猫	1970
57	"	ラヴァル, シャベル通り		93	ヴェーネル=ニベ・ミッキエル	バ テ ル と レ ロ	
58	"	ジョスラン城		94	ヴィエイユアル・ リュシアン	ルシオンの秋, 柿	
59	"	マイグ・アンリ 花	1958年10月	95	ヴィヴァンコス・ ミゲル=ガルシア	バヤールの旧十字路	1971
60	マタモロス・ ルベルト=シェイ	マタモロス・ ルベルト=シェイ 畏	1958	96	ヴィヴァンコス・ ミゲル=ガルシア	レースのテーブルクロスと花瓶	1958
61	マクシム	村 の 汽 車	1967	97	"	村のメリーゴーランド	1971
62	メイエリ・ホルザー モライス・クリサルド =ダスンカオ	バトー・ラヴォワールの 税官ヘルソーに捧ぐ ヤ マ ン ジ ャ	1981	98	ヴィヴァン・ルイ	パリ, セーヌ川とオルセー河岸	
63	ムラツ・ フランジョ	ムラツ・ フランジョ 休 日	1973	99	"	パリ, サクレ・クール寺院	
64	オルティス・ セバティアン	スペインの楽屋	1935	100	ヨルダノフ・ ディミトリ	アナトール・ヤコフスキイ の肖像	1968
65	パロテ・ニコレット ペトロヴィック・ リューべ	バベルの塔	1850	101	作 者 不 詳	婦 人 像	
66	ピケ・W	村 へ の 帰 路	1977	102	"	カ リ ユ メ	
67	プラスコシンスキイ・ ジャン	廢 墟 と 川	1975	103	"	ヴァイオリン弾き	1960頃
68	国際ナイーフアート アナトール・ ヤコフスキイ美術館	建 築 物	1973頃	104	"	イヴェット・ギルベルの肖像	
69	71	ピカソに捧げる		105	"	ばら園の中の婦人	
70	72	太陽の花	1969				
71	73	未開の森	1967				
72	74	芸術と人生	1975				
73	75	サンニコラ河岸から見た サンニルイ島	1888				
74	76	犬	1990~95				
75	77	猫	"				
76	78	正当な権利の天秤	1892				
77	79	ラ・ブティッド・ カルマニョール	1893				
78	80	水 車	1896				
79	81	橋	1905頃				
80	82	室内の婦人と動物	1895頃				
81	83	サラウン・アンドレ レ・フォリ・ベルジェール	1972頃				
82	84	花 束	1981頃				
83	85	セラフィーヌ・ルイ ペル=イル=アン=メール					
84	86	セネシャル・ マルセル スキュルジェニ・ マト					
85	87	モンマルトルの サクレ・クール寺院					
86	88	運 命 の 鳥					

<特別出品>

- 106 ルソー・アンリ 散歩(ピュット・ショーモン)  
第22回アンデパンダン展に参加するよう芸術家たちを導く  
自由の女神 1908頃
- 107 " 1905~06

○印は彫刻作品

所蔵機関等

ナイーフ美術館

No. 1~6, 12~14, 18~26, 30~32, 34, 37, 39,  
40, 42~45, 47~54, 56, 57, 63~65, 67, 68, 70,  
71, 73, 84, 86~88, 90, 93~96, 100~103

ブチ・パレ・ジュネーヴ

No. 7, 15, 27~29, 55, 79, 92, 98, 99

ラヴァル美術館

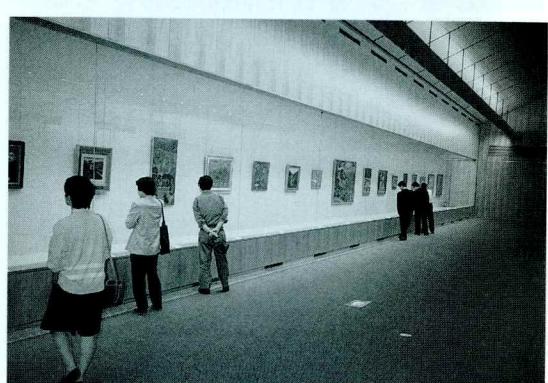
No. 8, 16, 38, 46, 58, 59, 62, 72, 75, 91

ディーナ・ヴィエルニー No.77, 78, 81

ハーモ美術館 No.80

世田谷美術館 No.76, 106

東京国立近代美術館 No.107



# 竹久夢二展

会期 平成4年9月5日(土)～10月11日(日)  
 展示点数 290点  
 入場者数 32,723人

大正ロマンの寵児として知られ、「宵待草」の詩や憂いを湛えた「夢二美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884～1934)は、画家・詩人としてのみならず、出版美術、商業デザイン、工芸など幅広い分野で活躍した作家である。

近年、夢二への関心と芸術への評価が高まり、多角的な研究とともにその全体像が紹介されるにつれ、ますます多くの人々を魅了している。

夢二と本県とのかかわりは、銚子での滞在をもとに作られた詩「宵待草」に代表されるように深いものがある。そこで本展覧会では、我が国有数の夢二コレクションである河村幸次郎コレクションを本県で初公開し夢二の芸術に迫るとともに、「夢二と房総」のコーナーを併設し、本県での夢二の足跡を紹介した。



## 出品目録

No.	作	品	名	制作年	No.	作	品	名	制作年
[日本画]									
1	春	の	野	1911	33	カ	一	女	1915頃
2	ぬ	れ	め	1912頃	34	山	の	娘	1916頃
3	桑	つ	烟	"	35	初	夏	夏	1917頃
4	待	ば	宵	"	36	青	譜	譜	1930
5	青	衣	女	1913頃	37	黄	丈	丈	1931
6	郷	物	愁	"	38	雪	野	女	1911頃
7	鴨	い	妓	1914頃	39	被	女	女	1914頃
8	阿	蘭	東	"	40	椅	春	酒	1918頃
9	切	陀	舞	宵	41	長	八	花	1920
10	支	丹	屋	敷	1914	崎	の	イ	"
11	木	波	天	渡	1915頃	十二	サ	ボ	"
12	室	よ	連	来	1917頃	景	ネ	テ	"
13	爪	れ	団	之	1919頃	長	ク	タ	"
14	春	遠	女	古	1920頃	十	十	字	"
15	扇	切	愁	り	1921頃	二	燈	流	"
16	春	か	妓	じ	1926頃	景	化	籠	"
17	夕	持	団	じ	1927頃	出	出	粧	"
18	初	つ	粧	粧	1928頃	上	浦	鏡	"
19	南	枝	早	夏	1928	天	鳳	片	"
20	鞍	馬	春	春	1928頃	主	眼	青	"
21	歌	薬	風	雪	1929頃	題	阿	の	"
22	紅	衣	多	多	1929頃	十	丘	光	1921
23	榛	留	舞	舞	1930頃	十	舞	線	"
24	鳥	扇	湖	湖	1930頃	五	産	の	"
25	流	名	雪	水	1931	五	朝	味	"
26	錦	山	秋	水	1931	五	三	の	"
27	春	を	う	秋	1931	五	黒	感	"
28	雪	に	る	う	1931	五	木	触	"
29	庭	石	埋	(七)	1931	五	ネ	状	"
30	二	人	舞	夕	1931	五	逢	冬	"
31	旅		妓	妓	1931	五	北	梅	"
32	洗		髪	髪	1931	五	娘	が	1930頃

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
[挿絵]			115	ピーストール		[デザイン]		
65	人形(つばめの来る頃)		116	おびえる		163	初	春 1926
66	写生		117	青い酒		164	不壊の白珠	
67	洗濯		118	森		165	舞鶴小唄	
68	糸まき		119	出合い		166	京の舞妓	
69	ピアノ	1932	120	露路の裏		167	信濃の雪	
70	駅		121	ギタータ		168	十和田湖の女	
71	泣く妻葉		122	御座敷		169	唐人お吉	
72	わくら葉		123	毒草		170	白久温泉	
73	メリーサン		124	切通し		171	戸倉巡り	
74	母娘(影絵)		125	階段の道		172	札所原の歌	
75	朝鮮だより					173	樂譜表紙少女	
76	姉妹					174	麗しき天	
77	めぐりあい		126	断髪の女		175	故郷の廃屋	
78	芽生会場		127	浅草十二階		176	別れの歌	
79	教會		128	浅草風景	1	177	才セノオヤマダ	
80	停車場		129	"	2	178	樂譜表紙原画	
81	花束		130	"	3	179	セノオ樂譜表紙原画	
82	鳩		131	"	4			
83	女優		132	冬の広場		180	"	
84	クラリネット		133	土佐太夫		181	"	
85	姉さんさよなら		134	三味線月		182	"	
86	姉の入院		135	東京震災	浅草五区	183	ハルモニカ樂譜表紙原画	
87	給士さん		136	東京震災	馬車	184	カレンダー図案	宝船
88	彼の家		137	読書		185	"	宿場
89	可愛いプリマドンナ		138	娘の顔		186	スキーワード	節
90	秋の刈入れ		139	大震災風物		187	西尾小唄	
91	いちょうの落葉 (秋の校庭)		140	オルガン		188	波浮港	
92	父母の旅立ち		141	柳の芽		189	秩父小唄	
93	電車の中		142	吉原の女		190	大文	
94	眼鏡のおばさん (衰れな兄弟)		143	顔		191	少女世界	1927新年号
95	恐怖(A)ピストルの影		144	橋のたもと		192	長瀬	
96	炉ばたの話		145	ビエロ		193	南蛮	
97	レイチャンの目覚め		146	島田		194	チューリップ	
98	デュエット		147	湯上りの子供		195	民謡詩人	
99	公園のベンチ		148	赤い		196	少女世界	11月号
100	恐怖(B)ピストルの影		149	寝顔		197	童謡小曲	
101	蘇州の夏		150	待合		198	マノン・レスコウ	
102	別ればなし		151	木馬		199	須坂小唄	
103	チョコレート		152	病あが		200	家庭日記	1931
104	病むおじいちゃん		153	帽子				
105	待合室		154	玉乗の		[版画]		
106	秋の刈入れ		155	宿芸		201	宝舟	1929
107	桜名への夢		156	羽		202	木版画	10点
108	ヴァイオリント		157					
109	夕仕度		158	束				
110	新しい先生		159	帶じ				
111	バルコニー		160	黒髪				
112	投身		161	仲居さ				
113	クリスマスイブ		162	京の別荘				
114	奉公に行く							

No.	作	品	名	制作年	No.	作	品	名	制作年					
[楽譜]														
203	セノオ楽譜	初恋之歌		1924(6版)	255	中山曲 晋全平集	旅人	の唄						
204	"	歌劇「ホフマンの物語」 船うた(改訂版)		"(8版)	256	"	夢	の女						
205	"	蘭燈		1921(再版)	257	"	不壊の白珠							
206	"	春の宵		1920(再版)	258	"	琵琶湖しゃんそん							
207	"	歌劇「椿姫」		1927(11版)	259	"	唐人お吉							
208	"	搖藍		1924(5版)	[著作本]									
209	"	汝が碧き眼を開け		1922(4版)	260	夢二画集	春の巻		1910					
210	"	別れし宵		"(3版)	261	"	夏の巻		"					
211	"	ロマンス		1923(3版)	262	"	秋の巻		"					
212	"	鐘		1922(3版)	263	"	冬の巻		"					
213	"	荒城の月		1924(再版)	264	"	花の巻		1910(再版)					
214	"	涙		1927(5版)	265	京人	形		1911					
215	"	もしや逢ふかと		1922(再版)	266	夢二エトボ	ン		1912					
216	"	雪の扉		"	267	どん	く		1913					
217	"	街燈		1922(2版)	268	昼夜	帶		"					
218	"	歌劇プロフエット 「ああわが子よ」		1921(再版)	269	三昧線	草		1915(3版)					
219	"	愛の古き歌		"	270	暮笛	笛		1916					
220	"	スキートホーム		1928(8版)	271	夜台	露		"					
221	"	いわれぬ嘆き		1920	272	春鳥	の		1917					
222	"	消えてあとなき		"	273	山よ	す		1919					
223	"	ちゝのみの		"	274	露地	細道		"					
224	"	匂ひの雨		"	275	青い	小徑		1925					
225	"	暮れて行く		"	276	砂が	き		1940					
226	"	歌劇ラ・ボエーム 「コートよさらば」		"	[装幀本]									
227	"	ふるさとの海		"	277	高信孝治著	光	やん	1913					
228	"	歌劇オペロン「人魚の歌」		1924(再版)	278	大平八郎著	ハイポック	ボ	1914					
229	"	乙女の春		1922	279	有本芳水著	芳水詩集		1914(6版)					
230	"	巷の雪		"	280	長田幹彦著	情話新集第二編舞妓姿		1915(4版)					
231	"	泣き黒子		"	281	"	鴨川情話		1915					
232	"	流れ星		1924(再版)	282	吉井勇著	東京紅燈集		1916					
233	"	深い河		1923	283	長田幹彦著	祇園夜話		1918					
234	"	伊太利名曲「マチナータ」		1924(再版)	[絵はがき類]									
235	"	ハバネラそなた		1923	284	絵ハガキ	キ	19点						
236	"	いにしへの		"	285	封筒	簡	17点						
237	"	モールゲン		1925	286	便せ	ん							
238	"	里祭		1924	288	千代紙	3点							
239	"	我家の唄		"	[書簡]									
240	"	ヴェニスの船唄		"	289	永井兼代(お葉)宛								
241	"	草の夢		"	290	大藤昇氏宛	2通							
242	"	天使		"										
243	"	草の中に唄える		"										
244	"	かいなき小夜曲		1926										
245	"	野薔薇		"										
246	"	バラダイス		"										
247	"	君よ知るや南の国		1924(10版)										
248	中作曲	晋全平集	波浮の港											
249	"	マノン・レスコオの唄												
250	"	当世銀座節												
251	"	鎮西小唄												
252	"	望月小唄												
253	"	椿												
254	"	東京行進曲												

## 企画展

房総の美術家シリーズ -22-

### 石井光楓展

会期 平成4年11月21日(土)～12月24日(木) 28日間

展示点数 106点

入場者数 19,224人

石井光楓(1892～1975)は、夷隅郡浪花村(現大原町)に生まれ、はじめ石井林響に日本画を学び、後に小杉未醒の作品に魅せられて洋画に転向し、第3回帝展で「牛の蹄を切る」が入選し、特選候補となった。その後アメリカに渡り、カリ

フォルニア・アート・スクールや、シカゴのアート・インスティテュートに学び、水彩などの技法を修め、さらに渡欧して、パリのアカデミー・ジュリアンで洋画を本格的に学んだ。留学中の約11年間に彼は優れた描写力と東洋的情趣に富んだ作品をパリのサロン等に数多く発表した。

昭和6年に帰国後は、主に春陽会に出品し、欧米で培った強靭な造形感覚が評価され、22年に春陽会賞を受賞、24年に会員となった。

昭和24年から33年までは県立長生第一高等学校で美術を教えるとともに、色面を強調したフォーヴィズム的な画風を確立し、制作に励んだ。

本展では、油彩52点、水彩54点、その他関係資料を公開した。



### 出品目録

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
[油彩]					
1	パリ郊外(マラコフ)	滞欧時代	21	製材工場	1962頃
2	ブルタニュにて	1931	22	初夏	1963頃
3	靴屋	滞欧時代	23	酒販	"
4	クイジニエール	"	24	鶴原	1964
5	パリの街頭	"	25	初霜	"
6	老人	"	26	運河	"
7	ブロンジ村の秋	"	27	三島に	1965頃
8	港	"	28	果樹園の島	1966
9	読経	経	29	橋の畔	(1) 1967
10	農家の庭	庭	30	緑の島	1968
11	土蔵のある風景	1934	31	晩夏	"
12	田園風景	"	32	ばら	"
13	自画像	1947頃	33	静物	1968頃
14	高井戸風景	1947～48頃	34	蚕の村	1969
15	鶴頭	1947	35	甲斐の駒	1969頃
16	木蓮	"	36	岩船	"
17	いちはつ	1947頃	37	山村の風景	1970
18	木蓮	"	38	山の農家	"
19	大原(岩船)朝	1956～57頃	39	山の別荘	"
20	霜	1962	40	番山の小屋	1971
			41	シードル工場	1972

No.	作 品 名	制作年	No.	作 品 名	制作年
42	農園の一隅	1972	74	セヌ河畔	滞歐時代
43	冬の海	1973	75	橋ル一ア	"
44	出漁	"	76	田園風景	"
45	ダリア	"	77	教會風景	"
46	陽春の庭	1974	78	中國風	1936~40頃
47	コスモス	ス菊家	79	漁港の島	"
48	白い花	1975頃	80	焼津島	1944
49	フランスの花		81	渓流の島	
50	凌霄		82	秋の島	谷山
51	ボピ	一	83	三島の風	1961
52	コスモス	(絶筆)	84	沼津島	"
			85	製材工場	1962
			86	島の霜富士	"
[水彩・他]					
53	夕コマ	1925	87	初島の富士	1964
54	帆船	滯米時代	88	三島の富士	"
55	ロサンゼルス・イーグルロック	"	89	"	(2)
56	ランゲル	"	90	"	(4)
57	ランゲルの浜	"	91	花原	港
58	橋のある風景	"	92	大色紙	(山水)
59	ポートランド風景	"	93	"	(あざみ)
60	オレゴン風景	"	94	"	(鮎)
61	オレゴンにて	"	95	"	(1)
62	スポークンの橋	"	96	"	(2)
63	町の鉄工所	"	97	"	1968頃
64	スペイン・エスコル	滯歐時代	98	"	(水仙)
65	スペイン・トレドの人家	"	99	山	水
66	アーブル市・場末	"	100	梅	
67	ひと休み	"	101	岩船	風景
68	肉屋	"	102	スケッチ	(1)
69	城	"	103	"	(2)
70	噴水のある公園	"	104	"	(3)
71	ペテルブルグ	"	105	裸婦	(1)
72	荷揚げ	"	106	"	(2)
73	橋	"			



—リアリズムの追求—

## 第3回浅井忠記念賞展

会期 平成5年1月16日(土)～2月21日(日) 32日間  
展示点数 88点  
入場者数 20,668人

本館は開館以来、近代日本洋画の先駆者で、リアリズムの追求を続けた本県出身の洋画家・浅井忠の画業を顕彰することにつとめた。この間、昭和58年度に開館10年記念事業として、浅井忠の精神を現代に生かし、また、現代の美術振興に寄与するため、公立美術館として初めての試みである全国公募による「浅井忠記念賞展」を開催し、多大な評価を得ることができた。

このたび、第3回展を開催することにより、現代における美術の一層の振興を図り、その動向を紹介する機会とした。

今回は、287点の作品が全国から寄せられ、審査の結果、大賞1点、優秀賞3点、入選84点が選ばれた。

審査員 乾 由明、植村鷹千代、陰里鐵郎、○嘉門安雄、桑原住雄、富山秀男、中村傳三郎、木間正義、三木多聞

(五十音順) ○は審査会長

## 第3回 浅井忠記念賞展



1993年1月16日土～2月21日日

大賞 伊藤順一「里」(東京)  
優秀賞 高中陽一「アーチャーリング」(神奈川)  
・ 近藤南海子「アーヴィング」(東京)  
・ 王軍「蘇州水鄉」(神奈川)  
入選 84点

主催 千葉県立美術館  
協賛 乾由明 植村鷹千代 陰里鐵郎  
嘉門安雄 桑原住雄 富山秀男  
中村傳三郎 木間正義 三木多聞  
(講演会) 1993年1月23日㈯ 今後の美術創造堂  
「浅井忠記念賞とアーティスト」三木多聞氏著  
TEL 043-234-2183 FAX 043-234-2181

主催 千葉県立美術館  
協賛 乾由明 植村鷹千代 陰里鐵郎  
(講演会) 1993年1月23日㈯ 今後の美術創造堂  
「浅井忠記念賞とアーティスト」三木多聞氏著  
TEL 043-234-2183 FAX 043-234-2181

## 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	No.	作 家 名	作 品 名
<大賞>					
1	伊藤順一(東京)	里	20	大原裕行(〃)	NUOROの街角('92-13)
<優秀賞>					
2	畠中陽一(神奈川)	アルミリネークショーン	21	奥村靖子(大阪)	フーガ・シーコンテンナ
3	近藤南海子(東京)	グレーの冬	22	小田泰之(東京)	1989年6月4日天安門
4	王軍(神奈川)	蘇州水郷	23	小原素彦(京都)	微光(梨)
<入選>(五十音順)					
5	青木貴次(千葉)	鉱山晴天	24	景山憲(香川)	商都展望
6	荒木尚(〃)	Metamorphose-阿蘇	25	笠原葉子(茨城)	~房総シリーズ~廃船のコンボジションII
7	井草裕明(埼玉)	夢のアトリエにて-114	26	片山栄治(東京)	地・DIRTY COLLECTION
8	生田裕人(千葉)	大雪警報解除	27	片山龍一(大阪)	現風景(表層)
9	池末満(福岡)	それぞれの空	28	鹿野浩(埼玉)	パンドラ
10	石井誠(神奈川)	いつか見た空	29	河寄朱三枝(東京)	Le temps(時)・軍艦島
11	石川和男(千葉)	瞑黙の刻	30	国武佑子(千葉)	我が妹なる花々は
12	稻垣直樹(大阪)	広場の夜	31	倉田和夫(兵庫)	B R E A D - 17
13	今関健司(神奈川)	突貫工事の末	32	栗崎武成(千葉)	トルド
14	岩井博之(大阪)	窮民	33	黒木重雄(茨城)	風葬塔
15	岩撫幸博(千葉)	廃船(残)	34	黒瀬道則(愛知)	痕跡B
16	上田一正(茨城)	数えきれぬい惧	35	黒田邦裕(千葉)	群像(悠)
17	大北節子(千葉)	時のあいだに	36	小泉清(埼玉)	イノセント
18	大塚利典(埼玉)	あれは、南からの風	37	古賀正夫(東京)	西安の並木道
19	大槌隆(千葉)	風のない午後	38	小山佐敏(埼玉)	生命都市シリーズ「集積」
			39	斎藤永良(千葉)	みどりの糸
			40	斎藤望(〃)	訪問問題
			41	佐藤淳(〃)	エトルリア礼讃

No.	作 家 名	作 品 名
42	佐藤 勤(東京)	人間の研究・風
43	新谷 浩二(岡山)	無力と時間と存在 II
44	新保 甚平(石川)	水辺
45	杉本 由明(埼玉)	清地(すがち)の森
46	杉本 治子(愛知)	アテンション
47	須藤 初雄(茨城)	狐火
48	染谷 厚(埼玉)	罠
49	高野 考太郎(〃)	人間の景
50	多田 耕二(千葉)	風景
51	館野 弘(茨城)	象の街(Cage gose Home)
52	田中 道太郎(千葉)	ドルメン回想「滅びゆくもの」
53	田邊 光則(茨城)	Woman in Red(孤独な影)
54	田沼 和夫(千葉)	CLEAN - ENERGIE
55	丹原 晋作(茨城)	創造される大地
56	陳雷(東京)	銀座風景
57	常松 昭夫(北海道)	海
58	中井 英夫(大阪)	風景(記憶)
59	中畔 千嘉(東京)	椿の自画像
60	中野 耕司(千葉)	僕のサンクチュアリ
61	鍋島 正一(〃)	静謐な舞踏
62	濱英二(長崎)	開かれた扉'92
63	蛭田 均(京都)	typewriter
64	福田 玲子(茨城)	わたしが来た
65	藤沼 多門(栃木)	Prism

No.	作 家 名	作 品 名
66	古川 勝(埼玉)	存在への儀式・I
67	星加 達夫(千葉)	私達の生活 II
68	星加 哲男(広島)	1992
69	星野 文和(東京)	瞑想
70	細川 尚(千葉)	寂しい人
71	仏輝 美(茨城)	少翼を守る人
72	前川 駿(埼玉)	静夕
73	松村 憲一(愛知)	景
74	松本 忍(埼玉)	運郷
75	丸田 栄蔵(〃)	Shadow City
76	丸畑 豊(大阪)	紅荷清風
77	安原 竹夫(埼玉)	ほどける風景シリーズ 「みんないっしょにerupton」
78	安盛 孝一郎(神奈川)	午後の投影
79	矢野 真一(東京)	男
80	山口 賛治(京都)	北の風景
81	山口 静治(兵庫)	もう1人の私
82	山崎 玲子(神奈川)	月
83	山下 哲郎(福岡)	Nifty
84	横須賀 幸正(茨城)	諸行無常
85	吉岡 真(新潟)	窓一根あがり松
86	若林 真盛(千葉)	風景
87	若山 保夫(〃)	マリア像のある群れ
88	脇 豊(〃)	リンクゴの詩

( ) 内は居住地



## 第16回 千葉県移動美術館

会 場 ①大原町文化センター  
②大栄町コミュニティプラザホール  
会 期 ①平成4年11月12日(木)～11月25日(水)  
② “ 11月28日(土)～12月10日(木)  
展示点数 ① 44点 ② 44点  
入場者数 ① 1,396人 ② 393人

館収蔵作品を中心に県展受賞作品の一部を加えて移動美術館を行い、美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



## 出 品 目 錄

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	No.	作 家 名	作 品 名	制作年				
<b>「館収蔵作品」</b>											
<b>&lt;日本画&gt;</b>											
1	富取風堂	魚と果	1956	1	香取秀真	鳩香炉	1949				
2	横尾芳月	夕粧	1981	2	津田信夫	北辺夜描子	1941				
3	島多訥郎	秋趣	1966	3	宮之原謙	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃				
4	渡辺学	下総の海女	1982頃	4	鹿島一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鎌水指	1981				
5	松尾敏男	原野	1971	5	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃				
<b>&lt;洋画&gt;</b>											
1	フォンタネージ	木立	1868～72	1	香取秀真	鳩香炉	1949				
2	浅井忠	フォンテンブローの夕景	1901	2	津田信夫	北辺夜描子	1941				
3	都鳥英喜	婦人像	1919頃	3	宮之原謙	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃				
4	鹿子木孟郎	風景		4	鹿島一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鎌水指	1981				
5	石井柏亭	安倍川		5	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃				
6	梅原龍三郎	皇居	1980	6	秋山逸生	菱華文象嵌長手箱	1946				
7	石橋武治	白鷺のいる風景	1953	7	信田洋	黒孔雀の瓶	1967				
8	安藤信哉	パリの窓	1962	8	藤田喬平	飾簪・しだれ桜	1985				
9	中西利雄	4人の女	1939	<b>&lt;工芸&gt;</b>							
10	内藤隣	緑衣の婦人像	1961	1	香取秀真	鳩香炉	1949				
11	富田通雄	外房鵜原	1964	2	津田信夫	北辺夜描子	1941				
12	小堀進	逆光	1974	3	宮之原謙	鉄茶釉鱗文花瓶	1968頃				
13	山本不二夫	ハイデルベルグ風景		4	鹿島一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鎌水指	1981				
14	笹岡了一	秋麗芦ノ湖	1969	5	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃				
15	柴田祐作	白い蔵	1988	<b>&lt;版画&gt;</b>							
<b>&lt;彫刻&gt;</b>											
1	高村光太郎	手	1918	1	石井柏亭	佐原	1917				
2	柳原義達	風の中の鴉	1984	2	浜口陽三	ざくろ	1958				
3	佐藤忠良	ラップ帽	1982	3	星裏一	王の樹	1976				
4	舟越保武	婦人像	1985	4	深沢幸雄	掌の中の影	“				
5	山本正道	エトルリアの壺	“	5	池田満寿夫	中間	1967				
<b>&lt;書&gt;</b>											
<b>「第44回県展出品作品」</b>											
1	甲斐貴志枝	晨(日本画・県展賞)	1992	1	浅見喜舟	檻	1976頃				
2	瓜生洋子	回想(洋画・県展賞)	“	2	小暮青風	天	1966				
3	奈良尚石	萬壑秋意帰(書・県展賞)	“	3	中村象閣	古泉千権の和歌	1972				



大原町（大原町文化センター）



大栄町（大栄町コミュニティプラザホール）



## 普 及 事 業

美術講演会は、展覧会に併せ年5回開催した。

また、特別展「竹久夢二展」の会期中に「夢二の詩コンサート」を開催した。

実技講座は、経験者を対象とした美術館講座7種9講座（延89日）を開催した。

図書は、年間270冊収集し、現在4,215冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

刊行物は展覧会に併せた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報2回、房総の美術史、年報、事業案内、館概要などを刊行した。

そのほか、友の会事業による初心者を対象とした実技講座3種9講座（延50日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（10大学13人）などに協力した。

## 教育普及

教育普及

### 美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて、展覧会作品を中心に解説を行った。

特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」では、会期中2回の講演会を開催した。まず、5月23日に跡見学園女子大学教授の岡谷公二氏が、近年注目されるようになったナイーフ美術の画風や美術史上の位置について講演された。次いで6月13日に洋画家の塩水流功氏が、画家としての立場からナイーフ美術について、自作の作品の紹介も交えて講演された。

特別展「竹久夢二展」では、9月12日に美術評論家の瀬木慎一氏が、作家として幅広く活躍した夢二の人生を振り返りながら、彼の業績を浮き彫りにした。

企画展「石井光楓展」では、11月28日に筑波大学教授の石井武夫氏が、大原町に生まれ、長くヨーロッパ留学をした後、春陽会を舞台に活躍した光楓の画風や人となりについて、詳細に話された。

企画展「第3回浅井忠記念賞展」では、1月23日に当館副館長の小池賢博が、近代リアリズム絵画の流れに触れながら、入賞・入選作品の様々な画風の特徴について講演した。



No.	期日	演題	講師	聴講者数
1	5月23日(土) 2時~4時	アンリ・ルソーの人と作品	岡谷 公二(跡見学園女子大学教授)	146人
2	6月13日(土) 2時~4時	ナイーフ美術と私	塩水流 功(洋画家)	87人
3	9月12日(土) 2時~4時	竹久夢二 —愛と孤独の絵画	瀬木 慎一(美術評論家)	174人
4	11月28日(土) 2時~4時	石井光楓 一人と作品	石井 武夫(筑波大学教授) (独立美術協会運営委員)	107人
5	1月23日(土) 2時~4時	浅井忠記念賞展とリアリズム	小池 賢博(当館副館長)	96人

### ミュージアムコンサート

特別展「竹久夢二展」の開催に併せ、「夢二の詩コンサート」と題して、9月19日に、ニューフィルハーモニー・オーケストラ千葉のメンバーの演奏による夢二作詞の歌曲を中心としたコンサートを行った。

曲目	演奏者
1 背待草	横山 美奈(ソプラノ)
<夢二の詩>	中里 かほり
2 別れし宵	(ソプラノと司会)
3 紡車	田崎 祐子(ピアノ)
4 母	
5 風の子供	<室内楽>
6 背待草	本庄 篤子(ヴァイオリン)
<ふるさとの歌>	黒田 育子(フルート)
7 早春賦	斎藤 章一(チェロ)
8 浜辺の歌	
9 たあんき・ぼーんき	
10 ふるさとの	
11 この道	
12 里の秋	



# 実技講座

## (1) 日本画講座

期　　日 平成4年5月22日(金)・23日(土)・24日(日)・26日(火)・27日(水)・28日(木)・  
29日(金)・30日(土)・31日(日) 6月2日(火)・3日(水)・4日(木)  
(12日間／うち講師指導日数8日間)

講　　師 斎藤 悠氏

受講者数 21人

内　　容 経験者を対象して、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーサの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



## (2) 洋画講座

期　　日 第1期 平成4年7月2日(木)・3日(金)・4日(土)・5日(日)・7日(火)・  
8日(水)・9日(木)・10日(金)・11日(土)・12日(日)  
第2期 平成4年7月23日(木)・24日(金)・25日(土)・30日(木)・31日(金)・  
8月1日(火)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)  
(各10日間／うち講師指導日数は各7日間)

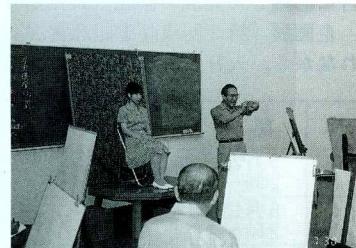
講　　師 第1期 松沢 茂雄氏

第2期 戸田 健夫氏

受講者数 第1期 35人

第2期 28人

内　　容 経験者を対象として第1期は人物を、第2期(水彩)は静物、人物をそれぞれモチーフとして、デッサン、構図、彩色などの基礎的技法とより幅広い表現について学習した。



## (3) 版画講座

期　　日 平成4年6月11日(木)・12日(金)・13日(土)・14日(日)・17日(木)・18日(木)・  
19日(金)・20日(土)・21日(日)・23日(火)・24日(水)・25日(木)  
(12日間／うち講師指導日数は各7日間)

講　　師 増田 陽一氏

受講者数 19人

内　　容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。



#### (4) 彫刻講座

期 日 平成4年8月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・8日(土)・9日(日)・  
11日(火)・12日(水)・18日(火)・19日(水)・20日(木)・21日(金)  
(12日間／うち講師指導日数は各7日間)

講 師 渋谷 三朗氏

受講者数 15人

内 容 経験者を対象として、木を素材に、人物の表現方法、更に道具の取り扱い方を学習した。



#### (5) 陶芸講座

期 日 第1期 平成4年7月1日(木)・2日(金)・3日(土)・4日(日)・5日(火)・  
14日(火)・21日(火)・22日(水)・30日(木)  
(各9日間／うち講師指導日数は各5日間)

第2期 平成4年9月1日(火)・2日(水)・3日(木)・4日(金)・5日(土)・  
15日(火)・24日(木)・25日(金)・30日(木)

講 師 第1期 横山光ノ介氏

第2期 神谷 紀雄氏

受講者数 第1期 35人

第2期 36人

内 容 経験者を対象として、信楽土を素材にかき落とし、象嵌、上絵付などをはじめ粘土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習した。



#### (6) 書芸講座

期 日 平成4年12月3日(木)・4日(金)・5日(土)  
(3日間／うち講師指導日数は各3日間)

講 師 中村 象閣氏

受講者数 24人

内 容 経験者を対象として、漢字を中心に様々な表現について学習した。



#### (7) 金工講座

期 日 平成5年1月22日(金)・23日(土)・24日(日)・26日(火)・27日(水)・29日(金)・  
30日(土)・31日(日)・2月2日(火)・3日(水)・4日(木)  
(12日間／うち講師指導日数は8日間)

講 師 小林 正利氏

受講者数 20人

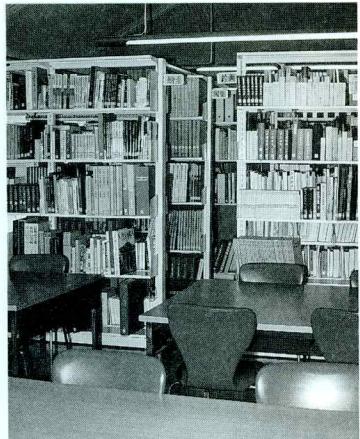
内 容 経験者を対象として、銅板のレリーフ制作を通じ金工の基礎的技法とより幅広い表現について学習した。



## 情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けるなど時宜に併せた対応に努めた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報提供を行った。

なお、4年度の情報資料室における収蔵図書については159冊を購入、111冊を受贈し、美術情報資料の充実を図った。



## 購入

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	日本学術資料総目録1988年度版美術・工芸 スカラ／みすず美術館シリーズ3～5巻 バウハウス叢書3・4・7・11巻 イタリアの近代美術 茨城の美と心 美術家索引 日本・東洋篇 西洋篇 博物館の防虫対策手引き 秘蔵 日本美術大観7巻 アート・オークション・データブック1 全體人 河北倫明 美心游歴 河北倫明 聞書 アートミュージアム開発運営計画資料集 世界服飾文化史図鑑 房 総美術の往還 増補改訂 正倉院宝物北倉 日本美術作品レファレンス事典 絵画篇（近現代） 昭和の文化遺産 第2・4～6巻 日本近代美術と西洋 河北倫明美術時評集第3・5巻 アル・ヌーヴォー 世界の巨匠シリーズ別巻シュールレアリズム 世界美術全集超ワイド版全18巻 福島の近代美術 日展 史資料 I 文展・帝展・新文展・日展全出品目録 日展 史資料 II 文展・帝展・新文展・日展出品歴索引 日展 史 21・22巻 宮城県美術館・建設をかえりみて シュルレアリズムといふ伝説 シュルレアリズム読本 2～4巻 シュルレアリズム宣言	1988 1990～91 1991～92 1989 “ 1991 1992 1991 1992 “ 1991 1992 “ “ “ 1991 “ 1987 1992 1990～91 1992 1992 1990 1988 1975～80 1992 1990 1992 1982 1992 1981 1989	朝日出版社 みすず書房 中央公論美術出版 小沢書店 茨城新聞社 日外アソシエーツ “ 淡交社 講談社 日経BP社 芸術新聞社 西日本新聞社 綜合ユニコム 原書房 求龍堂 朝日新聞社 日外アソシエーツ ぎょううせい 中央公論美術出版 思文閣出版 美術出版社 “ 集英社 三好企画 日 “ 東北設計サービス みすず書房 思潮社 学芸書林	ホセ・アントニオ・デ・ウルビノほか ・アドルフ・マイヤーほか 井関正昭 恵光院白編 “ L·A·ザイコルマン J·R·ショロック編 平山郁夫・小林忠編著 にっけいあーと編 河北倫明著 米倉守編 山本康雄 長沼修二編 アルベルト・ラシネ著 アイリーン・リベイロ編 中地昭男 正倉院事務所編 日外アソシエーツ編 井上靖・河北倫明監修編 新集 明治美術学会編 ウィリアム・ハーディ U·M·シュニーデ解説 座右宝刊行会編 村山鎮雄 日展史編纂委員会編 “ 佐藤康雄編 飯島耕一 アンドレ・ブルトン著 巖谷國士 画刊行委員会 画家今関啓司の日記編
絵画	画家今関啓司の日記	1991	求龍堂	画刊行委員会 画家今関啓司の日記編

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	名画と出会う美術館 1~10巻	1991~92	小学校	
	画集・画文集全情報 45/90	1991	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	竹久夢二写真館 「女」	"	新潮社	栗田勇編
	田渕俊夫画集	1992	求龍堂	
	秘藏浮世絵大観 7・11巻	1988~90	講談社	橋崎宗重編
	夢二日記 全4巻	1987~91	筑摩書房	竹久夢二著 長田幹雄編
	象徴派の絵画	1992	朝日新聞社	中山公男・高階秀爾編著
	近代の絵画 美術全集作品ガイド	1993	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ編
	黒田清輝作品収蔵目録	1929	岩波書店	美術研究所編
	加藤東一画集	1992	岐阜新聞・岐阜放送	木進監修協力 岐阜県美術館編集協力
	速水御舟	"	学習研究社	鈴木善彦は編著
	ファン・エイク全作品	1980	中央公論社	吉川誠郎編著
	神坂雪佳画囊	1982	京都書院	日本アートセンター編集協力
	風景画全集美しい日本1・5・7~10巻	1988	ぎよせい	井上靖・河北倫明監修 新集編著
	ドイツ近代絵画史	1991	岩崎美術社	ヘルバート・フォン・アイネム著 神林恒道・武藤三千夫共訳
	絵具材料ハンドブック	"	中央公論美術出版	ホルベイン工業
	絵画の発見1・2・4~14・16~18巻	1991~93	学習研究社	竹内二郎編
	エプロドメロス	1972	思潮社	ジョルジョ・デ・キリコ
	〔現代世界の美術〕17・ラ・リコ	1990	思集英社	峯村敏明責編
	金山平三	1977	日動出版部	飛松實
	金山平三画集	1984	"	大塚信雄編
	デルヴォー画集	1987	リブロポート	
	岩橋英遠画集	1992	求龍堂	
彫刻	安田侃彫刻作品集	"	日本経済新聞社	
	森へ行く舟越桂作品集	"	求龍堂	
	戸内佐斗司作品集「大博物誌」	1991	"	
	石井鶴三素描集1・2巻	1992	形文社	
	佐藤忠良自選素描集 旅の走り書き	1980	現代美術社	
	佐藤忠良自選素描集 アトリエの中から	"	"	
	高村光太郎 人物書誌大系8	1984	日外アソシエーツ	北川太一編
	多田美波	1990	平凡社	
工芸	高村豊周文集 I	1992	文治堂書店	
	評伝柳宗悦	"	筑摩書房	水尾比呂志
版画	浜口陽三自選作品集	1991	小学校	
	日本銅版画の研究 近世	1974	美術出版社	菅野陽著
	日本の木版画	1992	千穂	ジユリア・ハッズ著訳
合冊復刻	東京美術学校上校友会誌叢書別冊1冊	"	ゆまに書房	青木茂監修
	京華雑誌上校友会誌叢書別冊2冊	"	"	"
	東京美術学校下校友会誌叢書別冊7冊	1991	"	"
	近代美術全集2巻			
一般・参考図書	岩波仏教辞典	1992	岩波書店	中村元ほか編
	昭和ニュース事典5・6巻	"	毎日コミュニケーションズ	昭和ニュース事典編纂委員会・毎日コミュニケーションズ編
	人間国宝(最新版)	1991	教育社	佐藤喜久雄編
	文化勲章(受賞者総覧1992年版)	1992	"	"
	新現代日本執筆者大事典第1~4巻	"	日外アソシエーツ	紀田順一郎ほか編
	国立国会図書館所蔵 国内逐次刊行物目録上・下巻	"	国立国会図書館	国立国会図書館収集部編
	自然大博物館	"	小学校	相賀昌宏編著
	世界全地図	"	講談社	
	日本常民生活絵引 全5巻・索引	1991	平凡社	澤敬三 神奈川大学日本常民文化研究所編

# 受贈

	書名	刊行年	発行所	編著者名
美術総記	キリスト教美術図典	1990	吉川弘文館	柳宗玄・中森義宗編
	日動画廊五十年史	1977	日動画廊	向井潤吉・難波香久三編
	行動美術三十五年の小史	1980	行動美術協会	坂崎乙郎
	鏡の前の幻想	1970	學藝書林	池辺一郎ほか編
	一水会史 I	1983	一水会	田中穰
	一水会五十年史	1988	中央公論美術出版	米倉守
	個の創意	1983	形象社	北海道新聞社編
	私の中の原風景	1986	北海道新聞社	相賀徹夫編
	明治・大正・昭和の仏画仏像 <sup>1</sup> 編	1987	小学校館	広論社出版局編
	私のつれづれ草	1984	広論社	
	想い出長谷川仁	1978	日動画廊	竹野美樹子、田中里美編
	ギャラリーリポート企画	1992	ギャラリーシルバー企画	高階秀爾ほか編
	日本美術全集 <sup>22</sup>	〃	講談社	仁科惇ほか編・執筆
	洋画と日本画(近代の美術 II)	〃	郷土出版社	黒田泰三
	長野県美術全集第2巻	〃	小学校館	千足伸行監修
	新編 大名宝日本の美術絵 <sup>12</sup> 卷	1991	日本テレビ放送網	瀬木慎一
	これだけは見たい日本の美術館88	1992	里文出版	北海道立近代美術館編
	色と空の日本美術	〃	北海道新聞社	牧田喜義
	ミュージアム新書 <sup>12</sup>	〃	西田書店	フォト・リーワード編
	国松登一北のファンタジー	1993	愛知芸術文化センター	日本美術院百年編委員会
	和尚館長頑張る	1992	日本美術院	北村由雄
	身体の現在形芸術はからだからだ	〃	現代企画室	佐谷和彦
	日本美術院百年史三巻上・下	1981	佐谷画廊出版部	高階秀爾・浅野徹編著
	現代画壇・美術記者の眼 1960-1980	1982	講談社	
	私の画廊ー現代美術とともにー	1982		
	日本美術全集 <sup>23</sup>	1993		
絵画	岡鹿之助画集	1978	美術出版社	
	田村孝之介画集	1977	日動出版部	
	児玉幸雄水彩画集	1990	求龍学館	
	平野遼自選画集	1977	小日本絵画	
	斎藤三郎素描集 南スペイン	1970	大日本絵画	
	墨雪河合敏雄墨絵集	1985	日貿出版社	
	孤高の画家 大村長府	1978	奈良県立美術館	奈良県立美術館
	森通壁画集	1992	森野浩二	
	岡野浩二作品集 1964-1981	1982	岡野浩二	
	藤田豊作画集	1984	藤田豊	
	豊田一男蠟画集	1986	群馬県立美術館	
	作画三昧ー青邨文集ー	1979	新潮社	前田青邨
	梅原幸雄・栗原幸彦・西田俊英 1988-1992 No.6-No.10	1993	本庄俊男	彩鳳堂
	太陽の絵筆	1979	岩崎書店	藤沢友一
	互井開一画集	1966	三川彩	杉浦隆
	川村浩章画集	1990	村浩	
	天城画帖 西村愿定作品集	1988	伊藤春秀	
	福井良之助作品集	1968	美術出版社	此木三九男著 鳥影社編
	画文集 アトリエの茶郎	1986	ダイセイコ	大町糺
	さんもん劇場	1983	近代文藝	芸林社編
	中村博自選作品集	1984	中村博	
	久里洋二作品集	1991	求龍	

	書名	刊行年	発行所	編著者名
絵画	緑川廣太郎画集	1992	美術出版社	
	遠藤彰子画集	〃	仁家出版部	小沼彰敏編
	古川通泰画集 1986-1992	〃		古川通泰画集刊行会編
	森本仁平画集	〃	森本仁平房	
	野に生きる・されどその名は画家 日本画家和高節二の生涯	〃	晃洋書	和高伸二
	山口豊専さしえ選集	〃	野馬曳き文庫	石井良一編
	林功画集	〃	求龍堂	
	新現代日本画家素描集 中島千波 桜花抄	〃	日本放送出版協会	
	花咲くぶらり美術館と小布施の里	〃	求龍堂	石田達彦編
	水仙の影	1993	京都新聞社	前川公秀
	平松礼二画集	1992	求龍堂	
	平山郁夫画集 桜蘭紀行	1990	朝日新聞社	
	原色日本水彩画集'92	1992	日本水彩画会	
	澤田哲郎画集	〃	澤田園子	中村光紀ほか編
	横溝洋画集	〃	横溝洋顕彰会	和田徹、中村一良編
	波の国から巡りくる	〃	ビジョン企画出版社	平松礼二
	大分県先哲叢書篇	〃	大分県教育委員会	大分県文化庁管理部編
	大田能村竹田著述篇	〃	〃	〃
	大田能村竹田書簡篇	〃	〃	〃
	大田能村竹田詩文篇	〃	〃	〃
	二世ファーブル昆虫記	〃	新潮美術社	久里洋二編
	久米桂一郎-教え子による受贈作品集	〃	久米美術館	神吉貞一
	美の人・学の人・久米桂一郎	〃	〃	
	秋元松子歌集 紅薔薇(べにそうび)	1984	日本経済新聞社	東山魁夷
	樹々光彩	1992	読売新聞社	新集社プランニングセンター編
	東山魁夷代表作選 日本の四季	〃	新学館堂	山梨俊夫編
	杉山寧素描聚成 I 全1巻2分冊	〃	龍新社	
	片岡球子画集 全1巻2分冊	〃	龍新社	
	伊東東郁三郎	1993	伊東郎堂	
	吉田清志画集	〃	芸術新聞社	若月敏明編
	アートトップ叢書: 同時代の画家集 成波島千	〃	新芸術新報	
	須田国太郎画集	1992	京都新報	長田幹雄編
	夢二書簡全2巻	1991	岩波ブックサービスセンター	中稟穂編
	田中穂のアート・ライブラリ	1992	芸術新報	
	東自然と共に	〃	宅新報	
	日百画の百年	1966	色彩新報	藤本韶三編
	斎藤博之作品集	1993	笛田舍新報	
	洋画の遺産	1992	マリア書房	マリア書房編
彫刻	清水多嘉示作品集	1974	光琳社	今泉篤男ほか
	平柳田中彫琢大品集成	1971	講談社	今泉篤男ほか
	砂澤ビックキ作品集	1989	用美社	針生一郎ほか解説
	石仏彫刻のすすめ	1976	日貿出版社	北川薰
	富永直樹彫刻作品集	1982	実業之日本社	実業之日本事業出版部
	舟越保武	1988	ギャラリーせいほう	
	木喰仏のすべて	1980	誠文図書	猪飼重明著 木喰研究会編
	竹田光幸写真集	1990		
	朝倉彫塑館の記録	1986	朝倉彫塑館	朝倉彫塑館
	石井鶴三作品集	1992	碌山美術館	碌山美術館
	資料 高村光太郎の読書	〃	北斗	堀津省二編

		書名	刊行年	発行所	編著者名
彫刻	山本正道デッサン集	1968-1992	1992	新潮社	
	昆野恆作品集	1915-1985	1989	美術出版社	
工芸	根付郷コレクション 東京国立博物館蔵	1983	日本象牙彫刻会	荒川浩和 著 講談社インターナショナル編	
	日本現代工芸美術 '89	1989	京都書院	現代工芸美術家協会	
	表具の科学	1977	東京国立文化財研究所	東京国立文化財研究所	
	豊田勝秋	"	中牟田佳影	西日本新聞社	
	陶芸の遺産	1992	マリア書房	マリア書房編	
	高村豊周文集 I	"	文治堂書店	東日本ガラス工業のあゆみ 編纂委員会編	
	東日本ガラス工業のあゆみ	"	東日本硝子工業会	茶屋染帷子復原事業委員会編	
	茶屋染帷子の復原記録	"	日本工芸会		
書	墨人四十年	1991	墨人会	今岡徳夫ほか編	
	書作家必携 実作する古典 8老子・莊子	1992	同朋舎出版	福田丞洲著	
	八十の書魂 千代倉桜舟作品集	"	千代倉桜舟	ホワイトポイント編	
	般若心経 -読む・書く・考える-	"	雄山閣出版	菊村紀彦	
版画	安西七郎傘寿記念版画集	1993	安西七郎	トッパンクリエイティブ	
	松本曼作品集	1991	筒井敏江	コミュニケーションズ編	
デザイン・建築	邸宅佳人 バウハウスとノールデザイン	"	ミサワホーム総合研究所	ミサワホーム総合研究所 出版制作室	
		1992	鹿島出版会	ノールインターナショナル ジヤン	
写真映像	レニ・リーフェンシュタール カラー写真技術事典 写意の竹一黄森写真集	"	求龍堂	二村隆夫編著	
		1993	コニカ広報室		

## 分類別図書数 (平成5年3月31日現在)

分類	平成3年度まで	平成4年度	計
美術総記	1,225	79	1,304
絵画	1,088	120	1,208
彫刻	175	20	195
工芸	310	10	320
書	130	4	134
版画	100	5	105
デザイン・建築	58	2	60
写真・映像	159	3	162
その他	45	0	45
雑誌(合冊・復刻)	332	8	340
一般図書	323	19	342
合計	3,945	270	4,215

区分	平成3年度まで	平成4年度	計
購入図書	2,182	159	2,341
受贈図書	1,763	111	1,874
合計	3,945	270	4,215

(展覧会図録を除く)

## 刊行物一覧

名称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報 Vol.19 No.1~2	B5	6	各2,000
平成3年度版 千葉県立美術館年報	B5	60	1,000
常設収蔵作品展 目録	B5 (1期) (2期) (3期)	4 <前期>4 <後期>2 6	(1期) 4,000 (2期) <前期>4,000 <後期>5,000 (3期) 3,000
	A2	1	1,000
特別展 図録 「アンリ・ルソーと ナイーフ美術展」	B5 B5 B2 B3	102 2 1 1	1,000 30,000 1,500 2,020
	車内吊ポスター	1	
特別展 図録 「竹久夢二展」	26.5×21.5 B5 B5 B2 B3	138 2 1 1	1,000 40,000 1,500 2,020
	車内吊ポスター	1	
企画展「石井光楓展」 図録	B5 B5 A2	54 2 1	500 5,000 1,000
	ちらし ポスター	1	
企画展「第3回浅井忠記念賞展」 図録	B5 B5 B5 B2 B2	8 44 2 1 1	10,000 1,000 10,000 5,000 1,000
	募集要項 公募用ポスター 展覧会ポスター	1	
房総の美術史 №103~114	B5	4	各500
平成5年度事業案内	A4変形	3折	20,000
千葉県立美術館概要	A4	3折	20,000
“ 英文概要	A4	3折	500

## 活動協力

### 千葉県立美術館友の会

#### 1. 目的

"みる・かたる・つくる"という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

#### 2. 組織

- (1) 会員数 個人会員651人 賛助会員1人  
(2) 役員 名誉会員6人 会長1人 副会長3人 監事3人 理事若干数

#### 3. 事業

- (1) 友の会だより"しおさい"の発行、年4回。各1000部印刷し、会員に配布した。  
(2) 第17回葉美会展の開催 会期／平成4年8月11日(火)～8月16日(日) 出品者44人 展示点数74点  
(3) 秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。

- ①日 時 10月21日(火)  
②行 先 成田市(航空科学博物館・千葉県立房総のむら)  
佐倉市(佐倉順天堂記念館・川村記念美術館)

- ③参加者数 43人

- (4) 館事業への協力

館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

- (5) その他 テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

#### 4. 平成4年度 友の会実技講座

講 座 名	期 日	日 数	受講者数	講 師
洋画入門講座(1)	5月26・27・28・29・30・31日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	35	根岸茂行
" (2)	6月6・11・13・18・20・21日 (土)(木)(火)(木)(火)(日)	"	"	熊谷文利
" (3)	6月23・24・25・26・27・28日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	"	31	関和彌
" (4)	2月18・19・20・21・22・23日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	"	33	戸田健夫
" (5)	9月8・9・10・11・12・13日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	"	22	小林数
" (6)	2月9・10・11・12・13・14日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	"	33	関和彌
日本画入門講座	11月17・18・19・20・21・22日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	"	23	斎藤惇
デッサン入門講座(1)	9月22・23・24・25日 (火)(水)(木)(金)	4	32	根岸茂行
" (2)	1月19・20・21・22日 (火)(水)(木)(金)	"	34	松沢茂雄

## 博物館実習

学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成4年7月27日～8月1日

共立女子大学1人、学習院大学1人、跡見学園女子大学2人、女子美術大学1人、聖徳大学2人、大阪芸術大学1人、実践女子大学2人、東京学芸大学1人、白梅学園短期大学1人、道都大学1人 (計 13人)

## その他の活動

平成4年5月21日～6月7日 千葉日報に特別展「アンリ・ルソーとナイーフ美術展」開催に伴う原稿提供。  
10回連載。

9月4日～9月11日 読売新聞に特別展「竹久夢二展」開催に伴う原稿提供。7回連載。

9月9日～9月23日 千葉日報に特別展「竹久夢二展」開催に伴う原稿提供。10回連載。

## 資料貸出一覽

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
澤部清五郎	ハドソン河の朝靄	「澤部清五郎展」	4.4.10~5.5 京都府京都文化博物館	京都府京都文化博物館
"	パリ風景		4.5.23~6.28 目黒区美術館	目黒区美術館
"	婦人像			
"	桜			
石井柏亭	舟に居る人	「80周年記念日本水彩展」	4.6.1~6.10 東京都美術館	日本水彩画会
"	舞姫			
大下藤次郎	久々子湖			
河合新蔵	竹林図			
中林僻	けしの花			
眞野紀太郎	バラ			
浅井忠	平壌大同江煉光亭	「石川欽一郎展」	4.8.1~9.6 静岡県立美術館	静岡県立美術館
石川欽一郎	水辺			
"	赤城淡煙			
五百城文哉	日光			
石井柏亭	病児			
原勝郎	モンマルトル	「都市風景の発見 —近代の一視点・描かれた都市」展	4.9.12~10.18 茨城県近代美術館	茨城県近代美術館
石井柏亭	晩春行楽図	「昭和初期の洋画展」	4.8.14~10.6 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館
椿貞雄	岩			
中西利雄	人物			
大久保作次郎	ヤッホー	「ゆかりの巨匠展」	4.9.12~9.27 岸和田市立文化会館	岸和田市
"	お茶どき			
"	虱			
石井林響	桃源樵	「日本近代洋画の旗手たち」展	4.10.8~10.20 東京・日本橋高島屋本店 4.10.22~11.3 神奈川・横浜高島屋 4.11.5~11.17 大阪・なんば高島屋	日本美術院・朝日新聞社
富取風堂	游鯉(其一)	「富取風堂展」	4.10.9~10.18 市川市文化会館	市川市教育委員会
"	"(其二)			
"	朝光			
"	斜陽(夏すがた其一)			
"	"(夏すがた其二)			
"	葛西風景			
"	廄舎			
"	秋の草			
"	スケッチ			
"	"			
"	"			
宮之原謙	象嵌磁鉢	「現代陶芸の系譜」	4.10.10~11.15 姫路市立美術館	姫路市立美術館
小宮山俊	白い嶺	「小宮山俊」展	4.10.20~10.25 東京セントラル美術館	込山俊男
"	赤い空・雪稜			
"	沙羅の樹の下			
今関啓司	浅春山路	「今関啓司展」	4.11.1~11.30 長南町郷土資料館	長南町郷土資料館
千代倉桜舟	宗左近の詩	「千代倉桜舟書展」	4.11.2~11.8 木更津市民会館	木更津市
米林雄一	CIRCLE AND TRIANGLE	「板橋の現況—清塚紀子・米林雄一展」	4.11.27~5.1.7 板橋区立美術館	板橋区立美術館
富取風堂	花籠	「院展95年の流れ展」	5.1.3~1.12 広島・広島市福屋	共同通信社・中国新聞社
"	駅路		5.1.15~2.1 徳島・徳島市そごう	"・徳島新聞社

## 調査・収集事業

当館の学芸員等が行っている従来の調査研究事業に加え、本年度は、客員研究員4名を委嘱し、その指導助言等の協力を得て、美術館活動の内容充実を図った。

資料収集については、日本画4点、洋画28点、彫刻1点、工芸34点、書7点、版画26点、研究資料1点を新たに収藏した。

その他、基金により浜口陽三の版画など35点を取得した。

## 収蔵資料

### 日本画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井忠	農耕の図	1902~7	紙・着彩	126.7×30.4	購入
2	楫取彦	登龍門		"	81.7×32.2	保管換
3	田村宗立	白衣観音	1900	"	160.8×74.8	購入
4	三谷十糸子	魚紋	1988	"	220.0×137.0	寄附

### 洋画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井忠	房州白浜	1886	紙・鉛筆	21.6×36.3	保管換
2	麻生蓉子	出を待つ	1978	キャンバス・油彩	129.3×160.5	購入
3	石井光楓	ブルタニュにて	1931	"	80.5×100.3	寄附
4	"	タコマ	1925	紙・水彩	30.6×48.3	購入
5	"	アーブル市・場末		"	35.4×51.5	"
6	"	荷揚げ		"	39.0×56.5	"
7	石井柏亭	冬の朝(行徳)	1909	キャンバス・油彩	45.3×63.5	"
8	伊藤順一	里	1992	キャンバス・アクリル絵具	181.8×227.3	"
9	王軍	蘇州水郷	"	キャンバス・油彩	112.0×162.0	"
10	近藤南海子	グレーの冬	"	キャンバス・アクリル絵具	227.0×181.8	"
11	桜田精一	追憶	1974	キャンバス・油彩	182.0×227.0	寄附
12	"	白い舟	1985	"	145.5×112.2	購入
13	佐善明	ソフィスティケートな出会い	1970	"	205.0×180.0	寄附
14	"	エルパソの居留区	1980	"	180.0×180.0	"
15	"	サンフランシスコ昼下り	1987	"	"	"
16	"	シーサイドアベニュー	1979	"	"	"
17	"	New York Letter	1984	"	"	"
18	チャールズ・ワーグマン	七里ヶ浜風景		"	20.6×43.0	寄附
19	椿貞雄	夏の風景	1928	"	30.6×45.5	購入
20	時田幸彦	犬吠	1991	"	60.0×73.0	"
21	行木正義	コンポジションB	1952	"	130.2×194.0	"
22	"	作品G	1975	キャンバス・アクリル絵具	249.2×418.6	寄附
23	"	作品81	1981	"	219.5×293.8	"
24	"	空間志向	1989	"	226.8×364.0	"
25	"	空間吟詠	1990	"	"	"
26	畠中陽一	アルミネーションー光の誘惑ー	"	キャンバス・アクリル絵具	163.0×194.0	購入
27	藤井外喜雄	シヤルトル	1975	キャンバス・油彩	144.0×110.0	寄附
28	"	自画像	1919	"	40.3×31.2	"

### 彫刻

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	長谷川昂	朝	1979	木彫	83.0×55.0×34.3	購入

## 工芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	秋山逸生	蝶貝象嵌小箱		象嵌	縦11.7×横11.7×高6.3	保管換入
2	浅井忠(図案)	草花盆	1902~7	漆芸	縦32.8×横32.8×高3.0	購入
3	"	桔梗文花瓶	"	陶芸	径7.0×高3.6	"
4	"	インカ文湯呑	"	"	径7.0×高5.8	"
5	川上祥三郎	黄釉彫文花器	1961	"	高53.2×口径45.6 (各)縦29.0×横41.0× 高4.3(三枚組)	"
6	河村蜻山	長方皿雨・風・晴		"		寄附
7	高村豊周	青銅花入		鋳金	高44.0×口径18.4	購入
8	信田洋	夕映の甲斐の山々	1987	彫金	高14.2×口径21.0	"
9	宮之原謙	彩地盛連葉文壺	1955	陶芸	径30.2×高30.7	"
10	山室百世	鋳銅草花置物	1933	鋳金	高41.0×幅17.0	寄附
11	"	黄銅線條文花瓶	1936	"	高42.0×幅16.5	"
12	"	鋳銅東亜の光置物	1939	"	高54.0×幅17.0	"
13	"	鋳銅萌ゆる力置物	1940	"	高72.0×幅22.0	"
14	"	鋳銅進駐置物	1944	"	高60.0×幅46.0	"
15	"	鋳銀小鳥のささやき	1943	"	高35.0×幅36.0	"
16	"	鋳銅朝陽(パネル)	1951	"	高60.0×幅88.0	"
17	"	鋳銅月明に善を聞く	1952	"	高76.0×幅122.0	"
18	"	鋳銅想念置物	1953	"	高44.0×幅30.0	"
19	"	鋳銅芽花瓶	1955	"	高54.0×幅32.0	"
20	"	鋳銅第三の指向花器	1958	"	高43.0×幅29.0	"
21	"	鋳銅遍路置物	1961	"	高39.0×幅33.0	"
22	"	臘銀粋える鳥置物	1964	"	高36.0×幅24.0	"
23	"	臘銀月明置物	"	"	高44.0×幅34.0	"
24	"	青銅花挿		"	高45.0×幅19.0	"
25	"	鋳銅花瓶		"	高45.0×幅13.0	"
26	横山朝陽	草花文搔落花瓶		陶芸	高23.9×口径32.5 径53.3×高2.1	購入 寄附
27	"	草花紋搔落皿		"	径22.5×高6.0	"
28	"	草花紋線文鉢		"	径20.2×高8.4	"
29	"	牡丹紋搔落壺		"		"
30	"	花鳥紋四方水指		"	幅4.9×奥行4.9×高6.8	"
31	"	伊羅保茶盃		"	径12.5×高6.0	"
32	"	唐津皮鯨平茶盃		"	径15.7×高5.8	"
33	"	御本手茶盃		"	径13.5×高7.4	"
34	"	白釉割高台茶盃		"	径12.2×高7.2	"

## 書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	小川瓦木	叙侃のイメー	1959	紙・墨	135.1×272.8	寄附
2	"	了々	1963	キャンバス・墨	115.5×89.3	"
3	"	春風秋月	1988	紙・墨	124.8×92.0	"
4	高澤南総	藝に游ぶ	1981	"	107.4×76.7×4面	購入
5	"	墨縁	1980	"	70.0×271.3	寄附
6	"	龍虎	1987	"	73.0×152.3	"
7	"		1988	"	228.3×80.0	"

## 版画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	川瀬巴水	房州太海	1925	紙・木版	36.1×23.8	保管換
2	"	市川の晩秋	1930	"	36.2×24.0	"
3	深沢幸雄	刻印	1964	紙・銅板	59.8×36.5	購入
4	"	古い楽譜(記号)	1965	"	58.2×36.5	"
5	"	土と火の祝祭	1966	"	59.4×35.8	"
6	"	青い扉	"	"	42.6×43.0	"
7	"	失われた像	1967	"	60.0×36.4	"
8	"	扉の向こうとこちらの人	"	"	56.9×36.5	"
9	"	指の間の記憶B	1970	"	74.0×49.8	"
10	"	黎明のヴィーナス	1971	"	70.0×50.0	"
11	"	窓	1972	"	73.2×49.2	"
12	"	星の門	"	"	74.8×49.8	"
13	"	凍れる歩廊(ベーリング海峡)	1978	"	49.5×74.5	"
14	"	りんごの夜A	"	"	36.5×53.0	"
15	"	湾頭に開く花	1979	"	75.0×49.8	"
16	"	アシェンダの地下にて	1980	"	75.0×48.5	"
17	"	異次元よりの使者	1981	"	53.8×36.0	"
18	"	鏡の前の人(2)	1983	"	39.8×55.8	"
19	"	酒場にて	"	"	36.0×69.3	"
20	"	陸橋の上を歩く人	1984	"	49.6×36.0	"
21	"	照れている人	"	"	74.4×49.6	"
22	"	寂しい訪問者	1988	"	74.5×49.6	"
23	"	顔は迷路	"	"	36.2×69.4	"
24	"	樹精	1990	"	59.5×36.1	"
25	"	長い飛行機の旅	1991	"	74.5×49.7	"
26	"	誇り高き男	1992	"	74.2×49.3	"

## 研究資料

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅井忠	流鏑馬		水彩	26.8×18.9	保管換

## 千葉県美術品等取得基金購入一覧

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	種別
1	岸田劉生	霽れたる冬之日	1917	キヤンバス・油彩	54.7×59.0	洋画
2	浜口陽三	3つのポップラ	1980	紙・銅版	62.5×47.5	版画
3	"	西瓜	1981	"	24.0×55.0	"
4	"	緑の毛糸	"	"	8.0×12.0	"
5	"	赤い蝶	"	"	6.0×4.0	"
6	"	ロビーナのさくらんぼ	"	"	8.0×6.0	"
7	"	"(7枚組)	"	"	各8.0×6.0	"
8	"	"(15枚組)	"	"	"	"
9	"	くるみ	1982	"	9.0×9.0	"
10	"	びんとレモン	1983	"	62.5×47.5	"
11	"	青い蝶	1982	"	5.0×5.0	"
12	"	"(7枚組)	"	"	各5.0×5.0	"
13	"	"(15枚組)	"	"	"	"
14	"	てんとう虫	1984	"	6.0×4.0	"

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	種別
15	浜 口 陽 三	てんとう虫(7枚組)	1984	紙・銅版	各6.0×4.0	版画
16	"	" (15枚組)	"	"	"	"
17	"	野	1985	"	24.0×55.0	"
18	"	編み棒	"	"	"	"
19	"	3匹の蝶	"	"	11.0×11.0	"
20	"	" (7枚組)	"	"	各11.0×11.0	"
21	"	" (15枚組)	"	"	"	"
22	"	カリフォルニア・チェリー	1987	"	4.0×4.0	"
23	"	" (7枚組)	"	"	各4.0×4.0	"
24	"	" (15枚組)	"	"	"	"
25	"	22のさくらんぼ	1988	"	54.6×23.8	"
26	"	マントリック・ミュージック I (22のさくらんぼ 15枚組)	"	"	各54.6×23.8	"
27	"	II (22のさくらんぼ 7枚組)	"	"	"	"
28	"	黄色い編み棒	1985~89	"	24.0×55.0	"
29	"	緑のポプラ	"	"	62.5×47.5	"
30	"	緑のさくらんぼ	1981~89	"	8.0×6.0	"
31	"	びんとレモンと赤い壁	"	"	62.5×47.0	"
32	"	暗い背景のびんと黄色いレモン	"	"	62.5×47.5	"
33	"	琥珀色のくるみ	1982~89	"	9.0×9.0	"
34	"	青いくるみ	"	"	"	"
35	"	青紫色の蝶	"	"	5.0×5.0	"

## 収蔵資料数一覧

(平成5年3月31日現在)

区分	購入	寄附	保管換	合計
日本画	104	132	25	261
洋画	306	356	40	702
彫刻	76	24	10	110
工芸	106	70	10	186
書	27	56	14	97
版画	124	49	5	178
合計	743	687	104	1,534
研究資料	243	1,216	53	1,512

## 客員研究

### ●松浦あき子（日本美術院百年史編纂室主幹）

日本画家、富取風堂の本館収蔵作品、資料、スケッチ、模写等で年代不詳の作品について指導を受けた。また、富取風堂の初期の院展出品作品リストの作成を依頼し、風堂の日本画の位置と画風の変遷についても関係文献の紹介や指導を受けた。

### ●宮之原初子（故宮之原謙夫人）

陶芸家、宮之原謙の本館収蔵作品についての研究指導を受けた。特に、壁面照明作品「銀河」再現のための調査上のアドバイスを受けたほか、作風の変遷に関する指導も受けた。

### ●香取忠彦（美術評論家）

金工家、香取秀真の本館収蔵作品についての指導を受けた。特に、秀真の調査ノートについての研究上のアドバイスを受けたほか、秀真の作風の変遷に関する指導も受けた。

### ●井関正昭（美術評論家）

フォンタネージの本館収蔵作品で年代不詳の作品について指導を受けた。また、画風の変遷についての紹介や、イタリアの近・現代美術の全般的な流れとその特徴についての指導を受けた。

# 管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

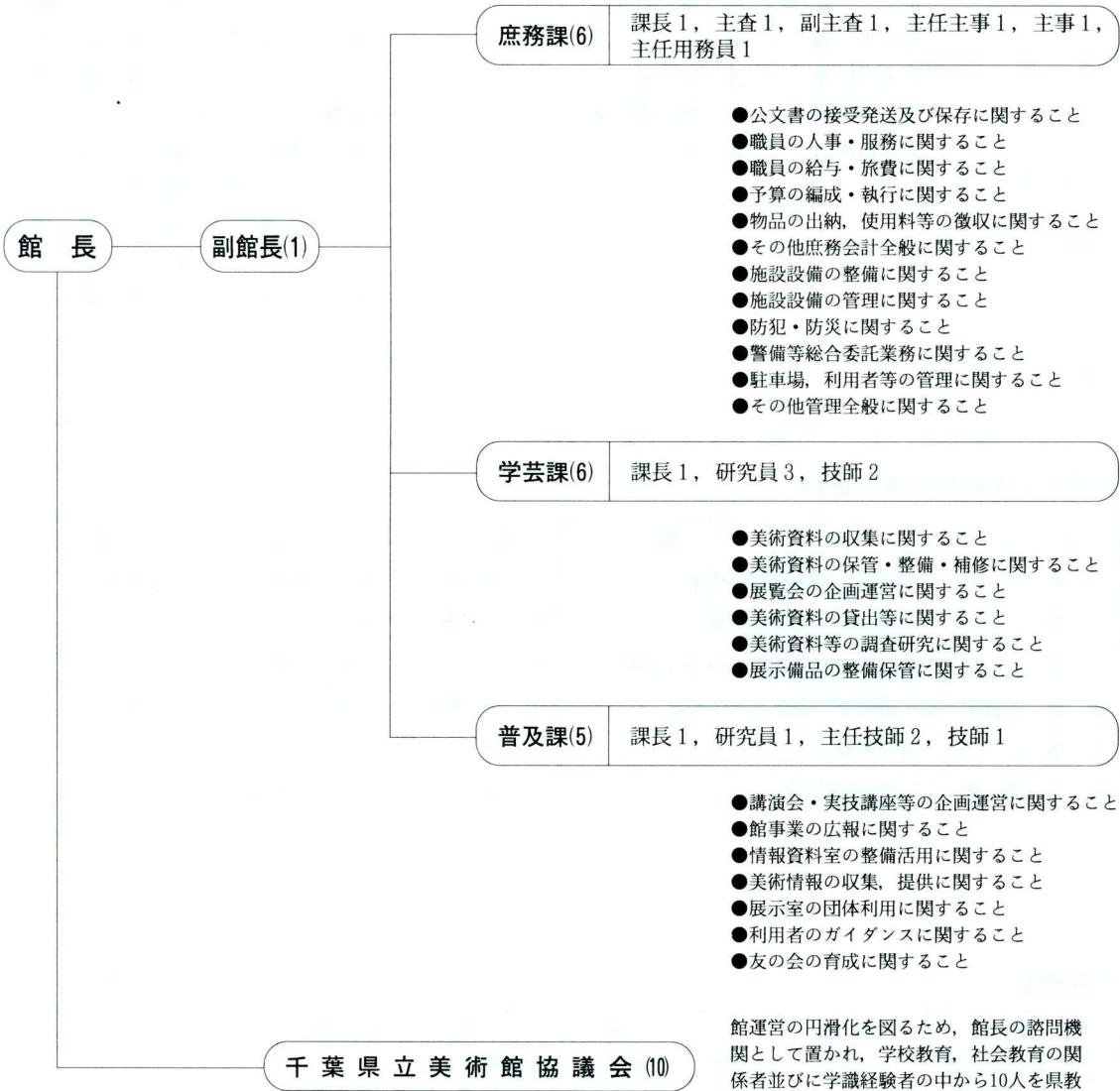
協議会では、美術館の運営について協議した。

## 運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

# 機 構

組織及び事務分掌（5.3.31現在）



館運営の円滑化を図るため、館長の諮問機関として置かれ、学校教育、社会教育の関係者並びに学識経験者の中から10人を県教育委員会が任命している。

千葉県立美術館協議会 (10)

館の活動に提携し、展覧会・実技講座・美術鑑賞会の開催・会報の発行などを行っている。

職 員	館 長	福 田 誠	学芸課
	副 館 長	小 池 賢 博	学芸課長
庶務課			米 田 耕 司
庶務課長	所 甚 一		研 究 員(派)
主 査(派)	加 藤 貞 美 治		大 久 保 守
副 主 査(派)	葛 生 久 雄	" (〃)	前 川 公 秀
主任主事(〃)	渡 辺 和 子	" (〃)	津 田 昇
主 事(〃)	安 西 寿 子	技 師(〃)	中 松 彰 久
主任用務員(〃)	長 島 則 子	" (〃)	三 浦 拓 郎
			普 及 課
			普 及 課長
			藤 川 正 司
			研 究 員(派)
			高 橋 正 夫
			主 任 技 師(〃)
			金 田 雅 成
		" (〃)	相 川 順 子
		技 師(〃)	矢 野 綾 子

### 千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事	戸 田 祯 祐	東京大学東洋文化研究所教授
岩 崎 吉 一 (4. 7. 1~)	東京国立近代美術館次長	富 山 秀 男 (~4. 6. 30)	東京国立近代美術館次長
垣 畑 利 光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	長 谷 川 昂	千葉県美術会長
齋 藤 志 貴 雄	前千葉県立千葉東高等学校長	山 下 賴 光 (4. 7. 1~)	日本放送協会千葉放送局長
佐 藤 信 夫	千葉県教育研究会造形部会長	吉 田 稔 (~4. 6. 30)	"
新 城 瑠 璃	ネスコ㈱取締役副社長 (千葉県立美術館友の会副会長)	若 桑 みどり	千葉大学教養部教授

### 予算概要

(単位 : 千円)

事 業 名	予 算 額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費	40,244 特別展 2, 企画展 3, 常設収蔵作品展
	普及事業費	3,108 実技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	1,177 資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	166,181 施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
施 設 設 備 費	備品購入費	55,000 美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品等
	委 託 費	5,700 作品修復, 備品修復
	工 事 費	8,274 展示室空調用ポンプ改修工事等
合 計		279,684

注)。職員の人工費・財團普及事業費は含まない。

。別に資料購入のため基金20億円。

## 利用状況

### 入館者数一覧

種別 月	開館 日 数	個 人			団 体						人数合計	備 考		
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生					
					人 数	團 體 數	人 数	團 體 數	人 数	團 體 數				
4	26	7,499	366	1,097	348	11	0	0	93	2	9,403			
5	28	16,201	793	2,686	319	9	0	0	84	1	20,083	特別展 「アンリ・ル ソーとナイ ーフ美術展」		
6	26	12,217	940	2,706	568	15	74	2	239	5	16,744			
7	27	8,245	367	1,788	513	12	0	0	121	3	11,034			
8	27	8,592	791	1,533	89	3	0	0	0	0	11,005			
9	26	27,567	1,678	3,983	1,076	24	146	4	0	0	34,450	特別展 「竹久夢 二展」		
10	27	20,706	689	6,365	1,152	30	0	0	291	5	29,203			
11	25	8,930	638	1,588	696	14	30	1	237	4	12,119			
12	21	9,164	351	5,450	73	3	0	0	191	4	15,229			
1	24	9,168	429	1,976	313	11	0	0	0	0	11,886			
2	24	9,696	585	2,293	303	10	48	1	403	3	13,328			
3	24	9,200	520	1,301	625	11	0	0	0	0	11,646			
計	305	147,185	8,147	32,766	6,075	153	298	8	1,659	27	196,130			

開館以来 総開館日数 5,346日 総入館者数 3,112,181人

### 地域別入館者数

種別 月	開館 日 数	県 内			県 外			外 国		
		千	葉	市	そ の 他	東	京	都		
4	26		4,090		4,148		425		567	173
5	28		9,079		9,266		728		905	105
6	26		7,944		7,499		655		609	37
7	27		4,302		5,788		439		406	99
8	27		4,386		5,173		588		812	46
9	26		15,410		17,173		807		905	155
10	27		17,118		10,744		573		632	136
11	25		4,409		6,278		399		975	58
12	21		3,156		11,341		316		387	29
1	24		5,776		5,144		410		534	22
2	24		6,022		5,992		468		804	42
3	24		5,734		4,768		375		732	37
計	305		87,426		93,314		6,183		8,268	939

## 展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 点 示 数
1	第29回全日本総合書道大展覧会	4/7~12	書	1,070
2	第16回鳳聲会書作展	4/14~19	"	107
3	第62回郷陽会展	"	洋画	137
4	第6回ガラス絵コクリコ会展	"	ガラス絵	83
5	第10回日中友好書道展	4/21~26	書	9,500
6	第18回武藏野美術大学校友会千葉県支部展	4/28~5/4	洋画	46
7	第19回千葉新協展	4/28~5/3	"	84
8	第12回千葉美術工芸展	4/28~5/10	工芸	75
9	第18回歩会彫刻展	"	彫刻	62
10	第23回表美展	5/5~10	表装・額装・屏風	127
11	第16回墨の県展	5/12~17	水墨画・日本画	376
12	第33回千葉市アマチュア美術会展	5/19~24	絵画・書・彫刻・版画・工芸・デザイン	743
13	第19回千虹会日本画展	5/19~31	日本画	31
14	第37回二科会千葉支部展	5/26~31	洋画	1,035
15	第39回千葉県書道協会展	6/2~7	書	432
16	第18回猿展	"	洋画・彫刻・工芸・写真	67
17	第15回新槐樹社千葉県支部展	6/9~15	洋画・彫刻・工芸	55
18	第15回千葉一陽展	"	洋画	141
19	千葉水彩展	"	"	77
20	千葉児童絵画展	"	絵画	1,350
21	第17回関東全展	6/17~21	日本画・洋画・工芸	203
22	第7回日本画四季展	6/17~28	日本画	86

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
23	第20回記念水彩連盟千葉支部展	6／23～28	洋 画	63
24	千 葉 二 紀 展	"	"	80
25	第36回千葉県小中学校書写展	6／30～7／5	書	1,150
26	第10回明日を拓く教育美術展	"	児 童 画	2,500
27	精 銳 展	"	洋 画	80
28	第24回千葉市水墨画同好会連合会展	7／7～19	水 墨 画	444
29	第78回習美会初夏展	7／21～26	日本画・洋画・水墨画	173
30	第9回千葉中美展	"	日本画・洋画	47
31	第26回漱雲会全国書道展	"	書	763
32	第21回写真千葉県展	7／21～8／2	写 真	1,195
33	第13回龍峠書道会千葉展	7／28～8／2	書	605
34	日本水彩画会第8回千葉県支部展	"	洋 画	68
35	第30回新世紀美術協会千葉支部展	8／4～9	"	67
36	第17回葉美会展	8／11～16	日本画・洋画	74
37	太平洋美術会千葉支部展	"	洋画・彫刻・工芸	123
38	千葉県市町村職員共済組合文化展	"	日本画・洋画・書・写真	91
39	千葉県高校芸術祭第25回合同写真展	8／18～23	写 真	389
40	第6回白亜会千葉支部展	"	洋 画	31
41	第22回いてふ会彫刻展	8／18～30	彫 刻	41
42	第12回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8／25～30	書	160
43	第20回千葉市教職員美術展	"	洋画・彫刻・書・その他	208
44	第一美術協会千葉県支部展	"	洋 画 ・ 工 芸	63
45	第32回白扇書道会展	9／1～6	書	8,791

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	示 点 数
46	第 24 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	9 / 8 ~ 13	洋 画	89
47	第 22 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	“	洋 画 ・ 写 真	126
48	第 15 回 千 葉 等 迦 会 展	9 / 15 ~ 20	洋 画	45
49	第 24 回 千 葉 現 展	“	洋 画 ・ 工 芸	110
50	第 15 回 千 葉 県 写 真 展	9 / 15 ~ 27	写 真	497
51	第 42 回 デザインフェスタ CHIBA	9 / 22 ~ 27	デ ザ イ ン	53
52	第 39 回 千 葉 県 勤 劳 者 美 術 展	“	日本画・洋画・書・写真	226
53	第 8 回 日 本 書 道 学 會 千 葉 県 連 展	“	書	259
54	第35回千葉市小中養護学校児童生徒総合展	9 / 29 ~ 10 / 4	絵画・彫刻・工作・その他	4,752
55	第 3 回 千 葉 県 教 育 芸 術 祭	10 / 6 ~ 11	日本画・洋画・工芸・書・その他	265
56	第 12 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	“	写 真	105
57	第 44 回 千 葉 県 美 術 展 覧 会 (県 展)	10 / 17 ~ 11 / 8	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	3,022
58	千葉県高校芸術祭「美術・工芸・書道作品展」	11 / 11 ~ 23	絵画・彫刻・工芸・書・デザイン・その他	1,674
59	第 4 回 千 字 会 書 展	11 / 25 ~ 29	書	84
60	第 19 回 文 化 書 道 連 合 会 公 募 展	“	“	779
61	ダ ネ ラ 展	“	工 芸	50
62	日 中 青 少 年 書 法 交 流 展	“	書	1,432
63	第 37 回 こ ど も 県 展	12 / 1 ~ 13	絵 画	11,964
64	今 日 の 美 術 を 考 え る 会 展	12 / 15 ~ 24	立 体 ・ そ の 他	38
65	第10回明るい社会づくりポスターコンクール展	“	ポ ス タ ー	1,220
66	登 龍 社 ・ 宮 坂 会 書 初 展	1 / 5 ~ 10	書	374
67	富 士 百 景 写 真 展	1 / 12 ~ 17	写 真	102
68	第 4 回 日 本 童 誠 の 書 展	“	書	2,622

No.	展 覧 会 名	期 間	作 品 種 別	展 示 点 数
69	第 20 回 千葉書壇秀抜・新進展	1 / 19 ~ 24	"	497
70	第 26 回 千葉県老人クラブ会員作品展	"	絵画・彫刻・工芸・書・写真・その他	333
71	千葉大学教育学部美術科卒業制作展	1 / 26 ~ 31	洋画・彫刻・デザイン	52
72	第 26 回 千葉大学学生書道展	"	書	105
73	第 10 回 千葉県医師会美術展	"	日本画・洋画・工芸	86
74	第 35 回 千葉市小中養護学校児童生徒書写展	"	書	1,400
75	千葉市観光絵画と写真コンクール作品展	2 / 2 ~ 7	洋画・写真	196
76	第 8 回 書 星 選 抜 展	"	書	266
77	第 45 回 千葉県小中高校書初展	"	"	817
78	群 鶲 書 人 展	2 / 9 ~ 14	"	47
79	第 18 回 子ども造形展	"	洋画・工芸・デザイン・その他	1,050
80	幕張北高校書道卒業制作展	"	書	65
81	第 16 回 唱 和 会 書 展	2 / 16 ~ 21	"	97
82	第 18 回 千葉県民写真展	2 / 16 ~ 28	写 真	350
83	和 洋 女 子 大 学 卒 業 展	2 / 23 ~ 28	書	63
84	第 22 回 千葉県大学美術連盟展	"	日本画・洋画・デザイン・工芸	89
85	第 24 回 千葉市民美術展	3 / 2 ~ 21	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・デザイン・写真	1,176
86	第 40 回 書 星 教 育 部 展	3 / 23 ~ 28	書	1,066

## 施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

### 外壁の打込みタイルー先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通り、2,400mm程度まで積み上げ单管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通り、横方向に单管を480ピッチに通り固定したが、施行時は、縦方向に单管を480ピッチに通り固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目指に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上った。

### 屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

### 空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海滨に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV(定風量型) + VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常

に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

### 照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx(平均)以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx(薄暗)から5,000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに抑えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

### <設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

### <施工者>

建築：榎竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)

衛生＝第一管工事(株)

電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

＜都市計画地域指定＞

用途地域：準工業地域

＜規模・面積＞

敷地面積 33,057.87m<sup>2</sup>

建築面積 8,777.94m<sup>2</sup>

延床面積 10,663.57m<sup>2</sup>

展示棟 6,343.02m<sup>2</sup>

管理棟 2,818.89m<sup>2</sup>

県民アトリエ棟 1,501.66m<sup>2</sup>

駐車台数 97台

＜工期及び建設経費＞

(1) 第1期工事（展示棟）5,194.59m<sup>2</sup>

（建築面積5,102.35m<sup>2</sup>）

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事（管理棟）2,274.60m<sup>2</sup>

（建築面積1,089.50m<sup>2</sup>）

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

(3) 第3期工事（県民アトリエ）1,501.66m<sup>2</sup>

（建築面積1,449.34m<sup>2</sup>）

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事（第8展示室）1,148.43m<sup>2</sup>・

収蔵庫544.29m<sup>2</sup>）1,692.72m<sup>2</sup>

（建築面積1,136.75m<sup>2</sup>）

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円

電気設備工事 81,000千円

空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355,267千円

工期別面積一覧

（単位：m<sup>2</sup>）

区分	階層	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

＜概要＞

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底：GL-5.00m

高さ：GL+15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート（基礎・地中梁・1階  
スラブ）Fc = 210kg/cm<sup>2</sup>

B種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・地上  
部）Fc = 300kg/cm<sup>2</sup>

C種・軽量コンクリート（地上部躯体でAB以  
外の梁・壁など）Fc = 240kg/cm<sup>2</sup>

【外部仕上げ】

外壁：炻器質タイル、一部コンクリート打放し

屋根：勾配屋根=アスファルトルーフィンシート、天然  
スレート3枚葺

陸屋根=アスファルト防水、押えコンクリート、  
豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシュ、一部型鋼グ  
ラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室：床=ビニールホモジニアスタイル

床=自然石(北木島御影)円盤摺および本磨(第  
7室)置敷きタイルカーペット(第8室)

壁=石綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、  
塗装仕上げ

壁=コンクリート碎り仕上げ(第7室)

天井=岩綿吸音板、塗装仕上げ

天井高=3,240～13,500mm

事務室：床=ビニールホモジニアスタイル

壁=プラスチック塗装仕上げ

天井=岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高=3,400mm

収蔵庫：床=フローリングブロック

壁・天井=米杉(第1・2室)桐(第3・4室)

天井高=3,400mm

講堂:床=置敷カーペット

壁=マコレ練付け

天井=クロス張り

第1・第2アトリエ:

床=ビニールアスベストタイル

壁=コンクリート打塗装仕上げ

天井=軟質石綿板

研修室:床=ビニールアスベストタイル

壁=クロス張り

天井=岩綿吸音板

和室:床=玄晶石水磨き、タタミ、桧家甲板

壁=京じゅらく塗

天井=杉柾ベニヤ目透シ、竿縁天井

## 設備

### 【電気設備】

受電方式:交流 3相3線式6,000V 50Hz

電話交換方式:64回線デジタル交換機方式

### 【空調設備】

展示棟=CAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式

管理棟=VAV方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱源:空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

### 【衛生設備】

給水:ポンプ圧送方式、引込み管径75mm

排水:污水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系

統(管径300)別、公設本管へ放流

### 【防災設備】

排煙方式:自然排煙、機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式:屋外・屋内消火栓、不燃性ガス消火設備

(ハロゲン1301)

自家発電:ディーゼル機関直結交流発電機、定格出力

100kVA

火災報知設備:P型1級自動火災報知設備

### 【その他の設備】

防犯設備:ITVカメラ設備、防犯警報装置

昇降機設備:荷物用エレベーター

規模:容量3,000kg、カゴ内法=3,000mm×3,000mm×

3,000mm、速度30m/min

## 展示棟

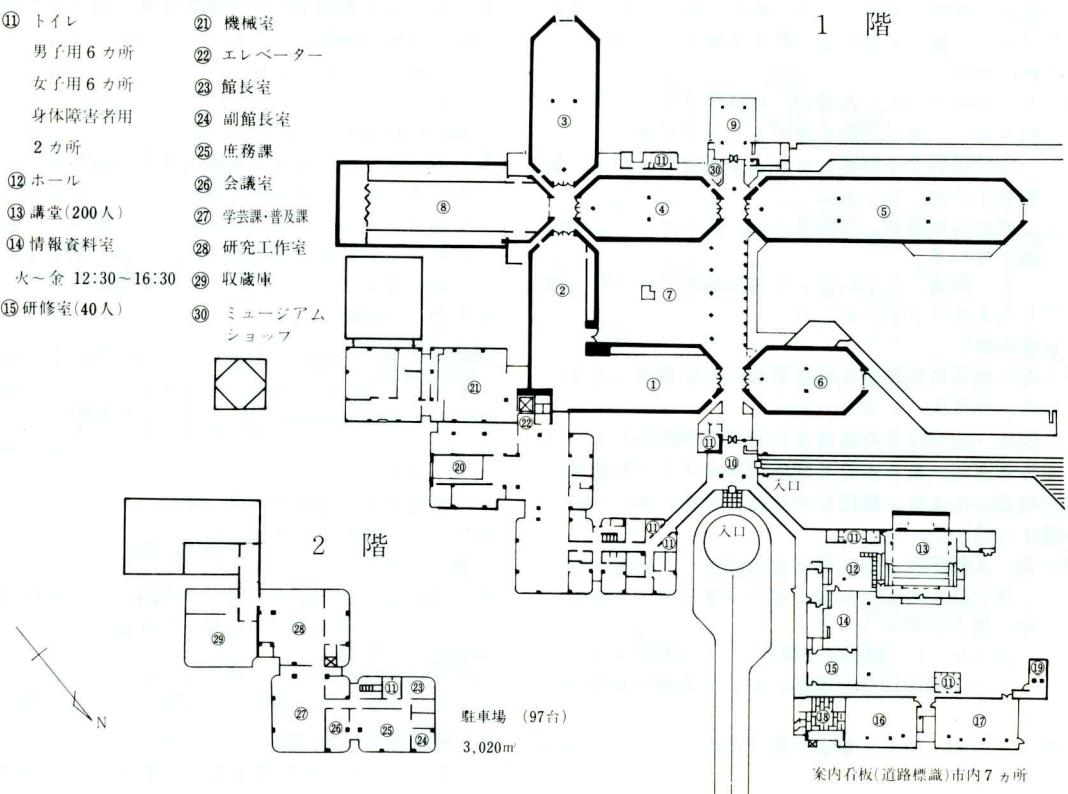
## 管理棟

玄関ホール	102.40m <sup>2</sup>	身障者用便所	7.92m <sup>2</sup>	(1階)		
クローケー	91.80m <sup>2</sup>	コントロール室	20.16m <sup>2</sup>	第2会議室	22.62m <sup>2</sup>	
倉庫A	2.70m <sup>2</sup>	フィルター室	28.92m <sup>2</sup>	更衣室	14.83m <sup>2</sup>	
" B	"	工作室	31.00m <sup>2</sup>	医務室	21.18m <sup>2</sup>	
第1展示室	437.76m <sup>2</sup>	発電機室	25.00m <sup>2</sup>	書庫	22.02m <sup>2</sup>	
" 2	400.32m <sup>2</sup>	電気室	123.20m <sup>2</sup>	警備員室	43.59m <sup>2</sup>	
" 3	469.08m <sup>2</sup>	ボンブ室	76.80m <sup>2</sup>	第1会議室	20.15m <sup>2</sup>	
" 4	403.20m <sup>2</sup>	機械室	305.20m <sup>2</sup>	倉庫	7.19m <sup>2</sup>	
" 5	824.19m <sup>2</sup>	機械室(新)	283.82m <sup>2</sup>	湯沸室	5.19m <sup>2</sup>	
" 6	330.58m <sup>2</sup>	高架水槽室	11.46m <sup>2</sup>	便所	24.54m <sup>2</sup>	
" 7	566.56m <sup>2</sup>	E.V機械室	27.28m <sup>2</sup>	宿直室	34.20m <sup>2</sup>	
" 8	864.61m <sup>2</sup>	E.V廻り	54.56m <sup>2</sup>	物置	9.92m <sup>2</sup>	
食堂堂	119.52m <sup>2</sup>	ダクトスペース	35.68m <sup>2</sup>	用務員室	31.83m <sup>2</sup>	
厨房房	36.00m <sup>2</sup>	廊下等	123.48m <sup>2</sup>	審査室・資料室	520.68m <sup>2</sup>	
従業員控室	17.28m <sup>2</sup>			準備室・荷解室		
食堂ホール	49.20m <sup>2</sup>	合計①	6,343.02m <sup>2</sup>	消毒室	31.79m <sup>2</sup>	
ミュージアムショップ	12.00m <sup>2</sup>			資料庫	124.25m <sup>2</sup>	
ロビーピー	335.52m <sup>2</sup>			荷解棚	52.67m <sup>2</sup>	
第1休憩室	23.04m <sup>2</sup>			包保管室	21.94m <sup>2</sup>	
" 2	"			荷扱人室	51.74m <sup>2</sup>	
" 3	"			機械室	123.52m <sup>2</sup>	
便所A	30.24m <sup>2</sup>			廊下等		
" B	23.76m <sup>2</sup>			小計	1,183.85m <sup>2</sup>	

(2階)	便 所	21.50m <sup>2</sup>	ホ 一 ル 側 便 所	29.97m <sup>2</sup>	
館 長 室	33.27m <sup>2</sup>	湯 沸 室 A	3.24m <sup>2</sup>	情 報 資 料 室	172.77m <sup>2</sup>
副 館 長 室	23.42m <sup>2</sup>	” B	6.87m <sup>2</sup>	情 報 資 料 室 倉 庫	4.70m <sup>2</sup>
第 1 応 接 室	14.67m <sup>2</sup>	廊 下 等	60.94m <sup>2</sup>	事 務 室	22.76m <sup>2</sup>
” 2 ”	14.55m <sup>2</sup>	ダクトスペースその他	3.56m <sup>2</sup>	研 修 室	74.70m <sup>2</sup>
庶 務 課 室	112.34m <sup>2</sup>	小 計	1,635.04m <sup>2</sup>	研 修 室 倉 庫	4.23m <sup>2</sup>
会 議 室	43.84m <sup>2</sup>	合 計 ②	2,818.89m <sup>2</sup>	第 1 ア ト リ エ	155.70m <sup>2</sup>
学芸課・普及課室	195.32m <sup>2</sup>	* 展 示 室 総 面 積	4,296.30m <sup>2</sup>	” 2 ”	184.31m <sup>2</sup>
学芸相談室	23.91m <sup>2</sup>	* 収 藏 庫 総 面 積	771.50m <sup>2</sup>	ア ト リ エ 側 便 所	20.77m <sup>2</sup>
研 究 工 作 室	216.49m <sup>2</sup>			荷 解 室	25.65m <sup>2</sup>
写 真 ス タ ジ オ	54.30m <sup>2</sup>			窯 場	27.17m <sup>2</sup>
器 材 室	6.74m <sup>2</sup>			窯 場 倉 庫	6.66m <sup>2</sup>
暗 室	12.19m <sup>2</sup>	1 F 機 械 室	25.92m <sup>2</sup>	ホ ー ル そ の 他	352.67m <sup>2</sup>
第 1 収 藏 室	184.40m <sup>2</sup>	講 堂 倉 庫	8.64m <sup>2</sup>	合 計 ③	1,501.66m <sup>2</sup>
” 2 ”	42.81m <sup>2</sup>	講 堂	259.24m <sup>2</sup>	総 合 計	10,663.57m <sup>2</sup>
” 3 ”	544.29m <sup>2</sup>	コ ン ト ロ ー ル 室	30.33m <sup>2</sup>	(①+②+③)	
E . V 前 室	16.39m <sup>2</sup>				

## 内 容

- ①～⑧ 展示室
- ⑨ 食堂(44席)
- ⑩ 玄関ホール
- ⑪ トイレ  
男子用 6 カ所  
女子用 6 カ所  
身体障害者用  
2 カ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂(200人)
- ⑭ 情報資料室
- 火～金 12:30～16:30 ⑯ 収藏庫
- ⑮ 研修室(40人)
- ⑯～⑯ 実技室
- ⑰ 窯場
- ⑱ 搬出入口
- ⑲ 機械室
- ⑳ エレベーター
- ㉑ 館長室
- ㉒ 副館長室
- ㉓ 庶務課
- ㉔ 会議室
- ㉕ 学芸・普及課
- ㉖ 研究工作室
- ㉗ ミュージアム  
ショップ



## 関係法令等

### 1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい醉者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。
- 四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは

備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させことがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

### 2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するものほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特展覧会	1人1回につき	510円以内

（以下省略）

### 3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行事等	施設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

# 平成 5 年度主要事業

## 企画展

### 常設収蔵作品展

I 期 4月1日(木)～7月11日(日)

II 期 7月17日(土)～10月11日(月)

III 期 12月4日(土)～平成6年3月27日(日)

本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、年間を3期にわけて各テーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。(準備等のため開催されない期間や、開催期間中の展示替があります。)

### 秋山逸生展 房総の美術家シリーズ (23)

11月20日(土)～12月24日(金)

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしています。

今年度は、東京に生まれ、戦前から市川市に在住し、「木象嵌」の重要無形文化財保持者（人間国宝）で、日本伝統工芸展などを舞台に活躍した秋山逸生（1901～1988）に焦点をあて、回顧します。

### 第6回現代日本具象彫刻展

平成6年2月5日(土)～2月27日(日)

平成3年度第5回展に引き続き、「21世紀への飛躍」を主題として、具象系彫刻作品を全国公募し、入賞・入選作品を展覧するとともに、現代彫刻の動向の一端を紹介します。

### 第17回千葉県移動美術館

睦沢ゆうあい館 11月17日(木)～11月30日(火)

山田町公民館 12月3日(金)～12月16日(木)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から館収蔵作品を中心に巡回展を開催します。

## 特別展

### デ・キリコ展

6月5日(土)～7月11日(日)

イタリア人を両親としてギリシャに生まれたジョルジオ・デ・キリコ（1888～1978）は、アテネの美術学校に学んだ後、ミュンヘンで過ごし、ベックリンなどの画風に影響されて、幻想的な画風に向かいました。その後、キリコは、パリに出てピカソらと交わり、キュビズムにも接しましたが、やがて、従来の絵画には見られない神秘的・夢幻的な絵画世界を築き上げました。幾何学的な形態、関連のない事物の組み合わせ、独特な遠近法など、反自然主義的な技法を駆使し、新鮮なイメージを漂わせたその画風は、後のシュールレアリズム絵画などの発展に大きな影響を与えました。

本展では、キリコの作品を展覧し、その独自の世界を探るとともに、20世紀美術に果たした業績について再確認します。

### ミレーと浅井忠の出会い —バルビゾン派と日本

9月4日(土)～10月11日(日)

19世紀の半ばに、パリ近郊のフォンテンブローの森の一隅にある小村バルビゾンに集まり、自然や農村風景を描いた画家の一群をバルビゾン派といいます。バルビゾン派の作品については、明治9年に工部美術学校の教授として来日したフォンタナージュをはじめ、その後も、展覧会や画集等を通じて様々な形で紹介されました。そして、その芸術の影響は、美術界はもとより、文学、思想など多方面に及びました。

本展は、主として「日本に将来されたバルビゾン派作品」「バルビゾン派受容に関わる日本洋画家の作品」をテーマに、ミレー、コローなどのバルビゾン派の作品や、浅井忠、黒田清輝などの日本洋画家の作品などを展覧し、バルビゾン派とわが国近代洋画との結びつきを浮き彫りにします。

講演会 特別展、企画展に関連し、年5回開催

### 実技講座

No.	講 座 名	開 設 日 時 (12:30~16:30)	日 数	定員	講 師
1	日本画講座	5月18日(火). 19日(水). 21日(金). 22日(土). 23日(日). 25日(火). 26日(水). 27日(木). 29日(土). 30日(日). 6月1日(火). 2日(水)	12 (8)	20	斎藤 悅
2	洋画講座(1) (水彩)	7月23日(金). 24日(土). 25日(日). 28日(水). 29日(木). 30日(金). 31日(土). 8月3日(火). 4日(水). 5日(木)	10 (7)	30	戸田 健夫
3	洋画講座(2) (油彩)	11月11日(木). 12日(金). 17日(水). 18日(木). 19日(金). 20日(土). 21日(日). 23日(火). 24日(水). 25日(木)	10 (7)	30	松沢 茂雄
4	版画講座	6月15日(火). 16日(水). 17日(木). 19日(土). 20日(日). 22日(火). 23日(水). 25日(金). 26日(土). 27日(日). 29日(火). 30日(水)	12 (7)	20	増田 陽一
5	彫刻講座	10月19日(火). 20日(水). 21日(木). 22日(金). 23日(土). 24日(日). 26日(火). 27日(水). 29日(金). 30日(土). 31日(日). 11月2日(火)	12 (8)	15	渋谷 三朗
6	陶芸講座(1)	6月8日(火). 9日(水). 10日(木). 11日(金). 12日(土). 13日(日). 7月1日(木). 7日(水). 21日(木)	9 (6)	30	鎌田 和平
7	陶芸講座(2)	11月9日(火). 10日(水). 11日(木). 12日(金). 13日(土). 14日(日). 12月3日(木). 8日(水). 16日(木)	9 (6)	30	神谷 紀雄
8	金工講座	1月25日(火). 26日(水). 27日(木). 28日(金). 29日(土). 2月1日(火). 2日(水). 3日(木). 5日(土). 6日(日). 8日(火). 9日(水)	12 (8)	15	小林 正利
9	書芸講座	11月30日(火). 12月1日(水). 2日(木)	3 (3)	25	中村 象閣

( ) は講師の指導日数

### 平成5年度職員

館 長 白石 竹雄  
副館長 小池 賢博

#### 庶務課

庶務課長 所 甚一  
副主査(派) 葛生 久雄  
主任主事(〃) 渡辺 和子  
主 事(〃) 安西 寿子  
主任用務員(〃) 長島 則子

#### 普及課

普及課長 藤川 正司  
研究員(派) 高橋 正夫  
主任技師(〃) 金田 雅成  
〃 (〃) 相川 順子  
技 師(〃) 矢野 綾子

#### 学芸課

主任学芸員 米田 耕司  
(兼)学芸課長  
研究員(派) 大久保 守  
〃 (〃) 前川 公秀  
〃 (〃) 津田 昇  
技 師(〃) 中松 れい  
〃 (〃) 三浦 拓郎

利用案内

## 開館時間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日

- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
- ・年末年始（12月26日～1月4日）
- ・展示替え等のため、必要があるとき。

観覧料・無料（ただし、特別展は有料）

団体観覧

- ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

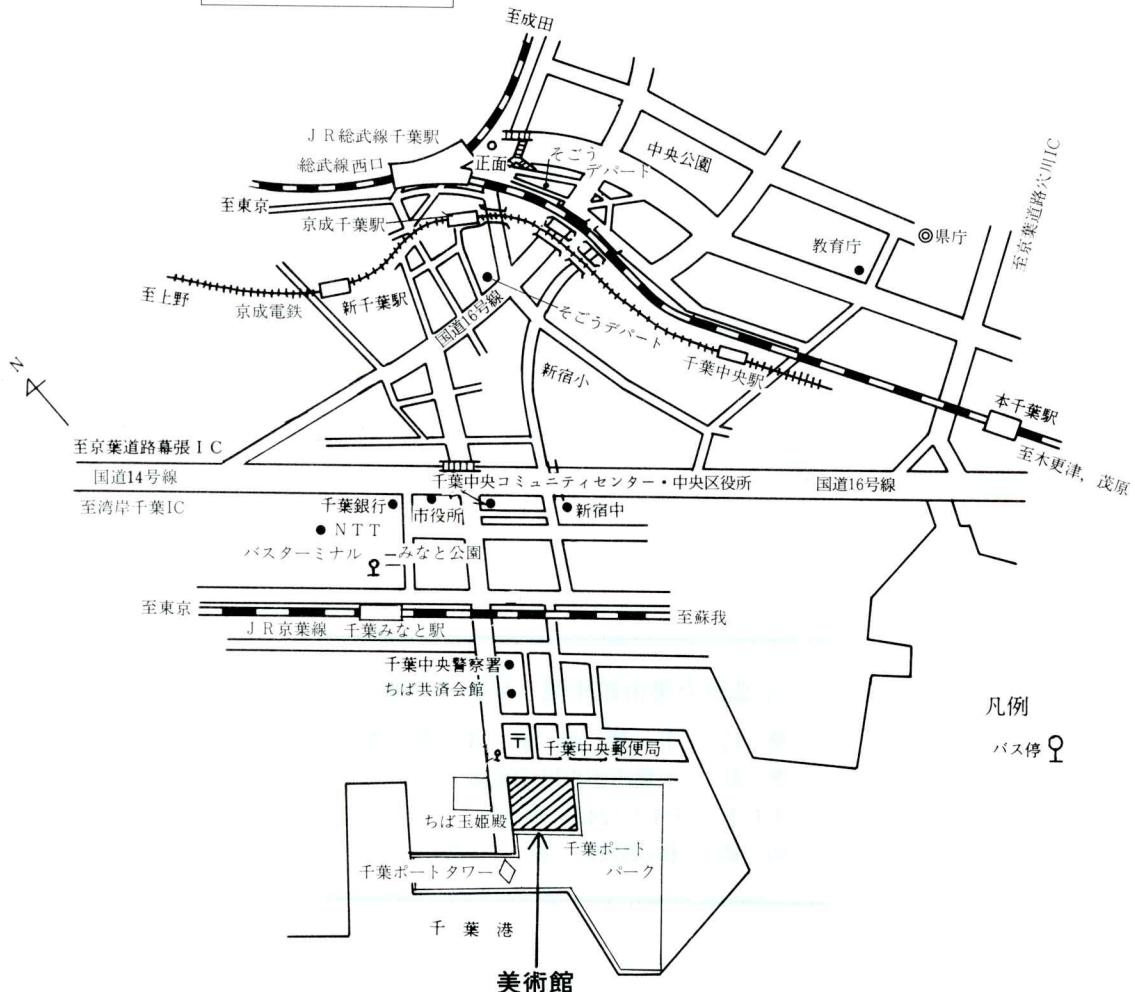
交通

★JR 総武線千葉駅下車

- 徒歩23分。
  - バス⑯番（千葉そごう前）のりばから  
「千葉ポートタワー」行にて15分、  
「県立美術館前」下車、徒歩1分。

★JR京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

## 案 内 図



---

千葉県立美術館年報（平成4年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

TEL 043(242)8311

印刷 株式会社 正文社

---

